

神戸観光局マーケティング情報
2023年 神戸観光年間レポート

2024年5月15日



はじめに	P.2
各種データのポイント！	P.3
1. 市内宿泊の動向① 神戸のデータ	
・2023年 年間延べ宿泊者数 速報値（神戸市、全国、周辺エリア）	P.5～9
・2023年 年間市内ホテル平均稼働率	P.10
2. 市内宿泊の動向② 神戸のデータ	
・国内OTA モニタリング 2023年 年間報告	P.12～18
3. 全国のインバウンドに関する情報 全国のデータ	
・2023年年間 訪日外客数	P.20
・2023年年間 訪日外国人消費額	P.21～22
4. 交通機関に関する情報 関西のデータ 神戸のデータ	
・2023年年間 関西国際空港国際線就航状況	P.24
・2023年年間 関西国際空港国際線入国状況	P.25～26
・【2023年年間 旅客ターミナル入港状況】ポートターミナル・中突堤	P.27～28
5. 神戸市内観光に関する情報 ～神戸観光局オリジナルデータ～ 神戸のデータ	
・2023年年間 市内観光案内所 国内観光客案内件数	P.30
・2023年年間 市内観光案内所 国籍別窓口対応状況（インバウンド）	P.31
・2023年 年間主要市内観光施設来場者数	P.32
・2023年 年間所管施設入館者数（金の湯・銀の湯・萌黄の館）	P.33
コロナ禍からの回復率まとめ（各種データ2019年比）	P.34
アンケートご協力をお願い	P.35



※観光統計情報については、統計の種類によって集計結果が配信されるタイミングに差が生じます。本レポートではできる限りタイムリーな配信に努めてまいります。発行後にベースの統計結果が変動している場合があります。

神戸観光局の活動に対するご高配、誠にありがとうございます。

JNTOが発表した2024年3月の訪日外客数が史上初めて300万人(単月)を超えたとのニュースは(※1)、日本の観光産業の成長を示す重要なマイルストーンだと感じています。2003年の調査開始時は3月単月で45.6万人(年間521万人)から比べるとその成長は著しいものがあります。

この成長を支えるためには、観光関連のデータ分析・活用が重要であり、神戸観光局が毎月配信している「マンスリーレポート」もその一助として、神戸観光局会員の皆様に活用して頂けていると幸いです。

今回初の試みとして、「2023年 神戸観光年間レポート」を配信いたします。

コロナ禍からの復活の1年であり、今後の成長の足場づくりの1年をデータでまとめました。

1年間のデータを見ると、改めて2023年の着実な回復を実感することができます。神戸市内に目を向けて見ても、徐々にインバウンド旅行者は増え、2023年12月にはインバウンド延べ宿泊者数がコロナ前を超える水準となりました。年間を通しては、コロナ前の約8割までインバウンドの宿泊者数が回復したところです。

2024年はリニューアルオープンとなる施設も多く、更なる旅行者の回復を期待しています。

そして、2025年、2030年は、「神戸空港国際化」という神戸観光にとって大きな節目が待ち構えています。

2024年、そして節目の2025年や2030年までを見据えた有効な事業を展開していくためにも、ぜひ一度、この年間データをご覧いただき、昨年1年間の皆様の事業の年間分析・評価にご活用いただければ幸いです。

また、年間レポートの配信とともに「マンスリーレポート 読者アンケート」を実施いたします。

皆様からのご意見やフィードバックを通じて、より有益なレポート作成に役立てたいと考えておりますので、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

一般財団法人神戸観光局
マーケティングディレクター 服部卓郎

2023年 神戸市延べ宿泊者数 神戸

2023年 神戸市の延べ宿泊者数は、国内外合計で628.6万人（2019年比99.0%）と、コロナ前と同水準まで回復。外国人延べ宿泊者数は、徐々に右肩上がりに回復し、2023年は総計で58.2万人と、2019年の78.8%の水準まで回復した。 [👉 5ページ～](#)

2023年 神戸市国内OTAデータ 神戸

2023年を通してみると、宿泊者数はコロナ前とほぼ同水準まで戻ったところではあるが、それよりもやはり宿泊単価の増加が著しいという結果（年間平均客単価 2019年比110.6%）になった。 [👉 12ページ～](#)

2023年 全国訪日外客数 全国

2023年年間で、全国の訪日外客数は2500万人を突破し、コロナ前の78.6%まで回復。毎月右肩上がりに回復し、特に渡航緩和から1年が経った2023年10月以降は、2019年同月を上回る勢いで多くの外国人が日本を訪れた。 [👉 20ページ](#)

2023年 訪日外国人消費動向調査 全国

2023年は、5.3兆円と過去最高を記録。
2019年比では110.2%の回復となった。
消費額増加の要因としては、円安や宿泊日数の増加だけでなく、物価の上昇なども起因していると思われる。 [👉 21ページ～](#)

2023年 関西国際空港国際線入国状況 関西

全国訪日外客数と同様に、関西国際空港国際線の入国状況は右肩上がりに回復。各国ごとに入国者数を分析すると、2023年は年間を通して回復基調であるため入国ピークが分かりにくいですが、少しずつ国ごとのピークが見えてきた。 [👉 25ページ～](#)

2023年 旅客ターミナル入港状況 神戸

2023年3月よりクルーズ船が本格的に再開し、寄港状況は回復基調。年間寄港隻数は140隻（国際フェリー含む。2019年比86%）となった。2019年のような超大型客船は減ったものの、2023年は、ラグジュアリークラス等グレードの高い客船の割合が増加。 [👉 27ページ～](#)

2023年 神戸市観光案内所 神戸

三宮・北野・新神戸の観光案内所での、国内旅行者の対応件数は2019年と比べて70.3%まで回復。インバウンドの国別対応では、2023年は1位：台湾、2位：韓国。特に台湾は2022年の6位から躍進。団体旅行の復活がその一因と思われる。 [👉 30ページ～](#)

2023年 神戸市内主要観光施設 神戸

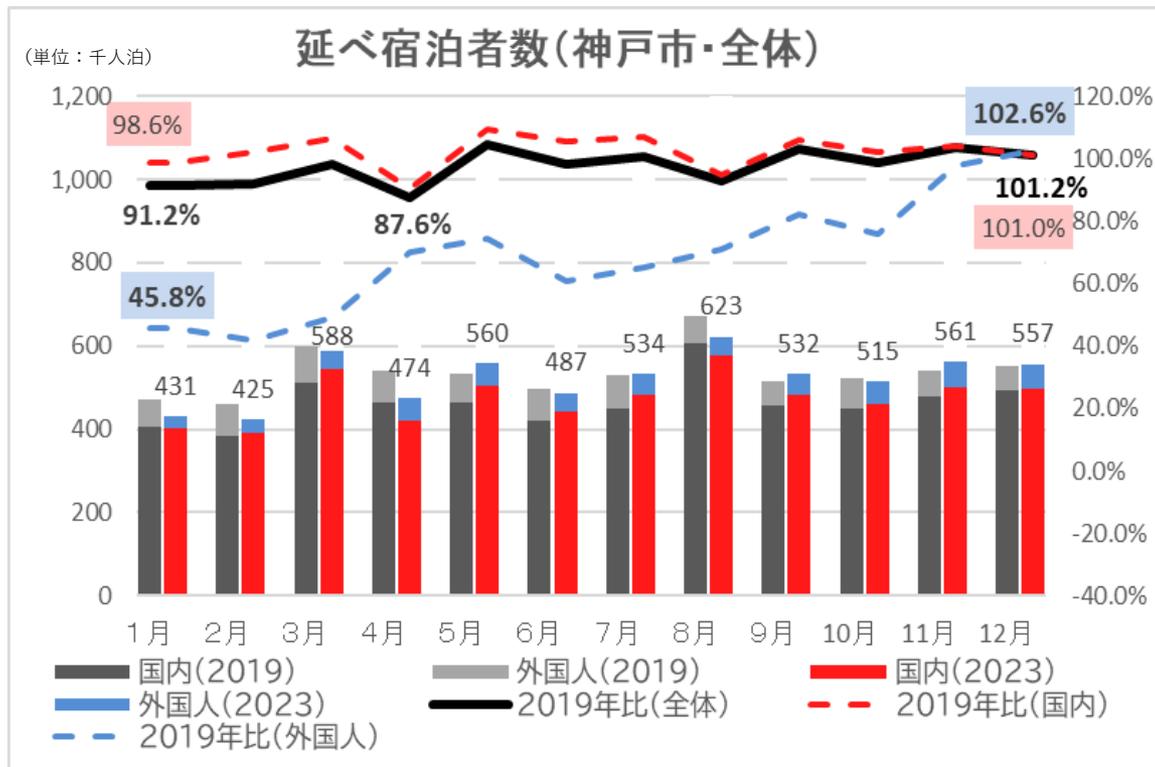
2023年時点で開館している施設ベースで2019年比を確認すると、12月にコロナ前を超えるほどまでに回復。2024年はリニューアルオープンとなる施設が多いことから、2024年に更なる回復を見込んでいるところ。 [👉 32ページ～](#)

市内宿泊の動向①

(延べ宿泊者数／市内ホテル平均稼働率)

2023年 年間延べ宿泊者数 速報値 (神戸市)

■ 2023年 神戸市延べ宿泊者数



全体でコロナ前水準まで回復 KPIは99.7%の達成

- 2023年 神戸市の延べ宿泊者数は**628.6万人泊**となった。2019年比では、**99.0%**の回復と見込んでいる。
(2023年KPI達成率：99.7%)
- うち、**国内が570.3万人** (2019年比**101.6%**)、**インバウンドが58.2万人** (2019年比**78.8%**)となり、**インバウンドのシェアは全体の約9.3%**となった。
- なお神戸観光局では、KPIとして、2025年インバウンド延べ宿泊者数：100万人と掲げており、2023年時点では約6割の達成となった。
- 今後2025年KPIの達成に向けて、より一層の神戸への誘客施策に取り組んでいく。

< 神戸観光局KPI >

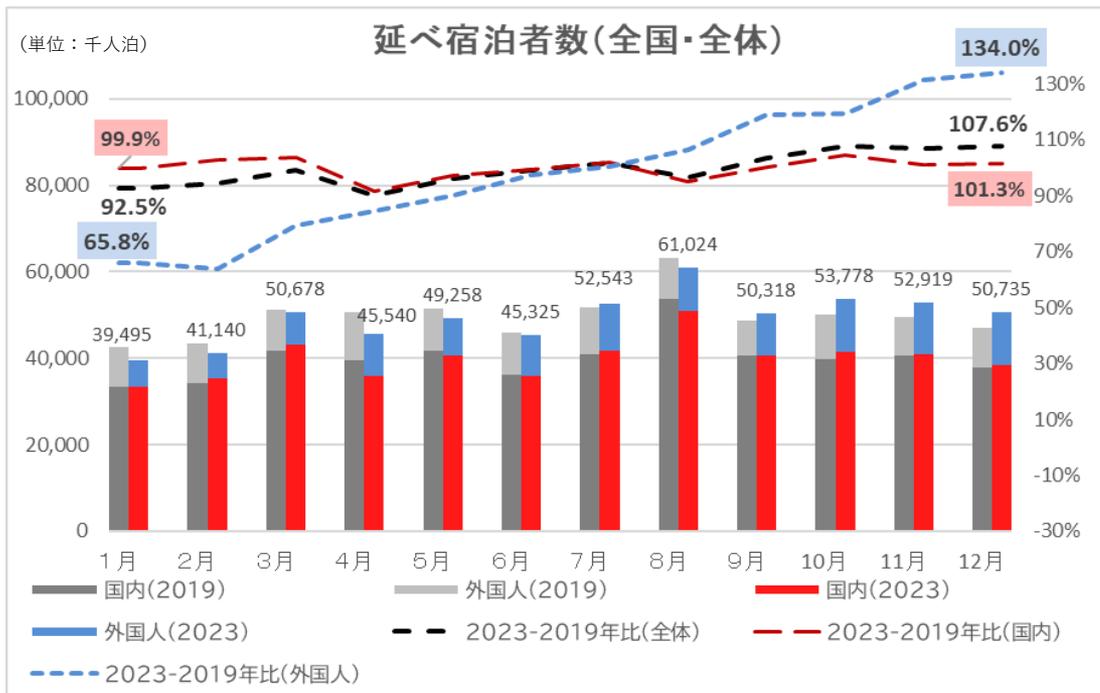
延べ宿泊者数		2023年	2024年	2025年
KPI	全体	630.0万人泊	635.0万人泊	690.0万人泊
	(インバウンド)	—	—	(100.0万人泊)
実績値	全体	628.6万人泊		
	(インバウンド)	(58.2万人泊)		

神戸市の詳細な分析(国籍別集計など)は、結果が出揃い次第マンスリーレポートに掲載予定。

出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」2023年第2次速報値、2019年確定値

※ 神戸市 拡大推計値：第2次速報値を用いて神戸観光局で独自試算したもの

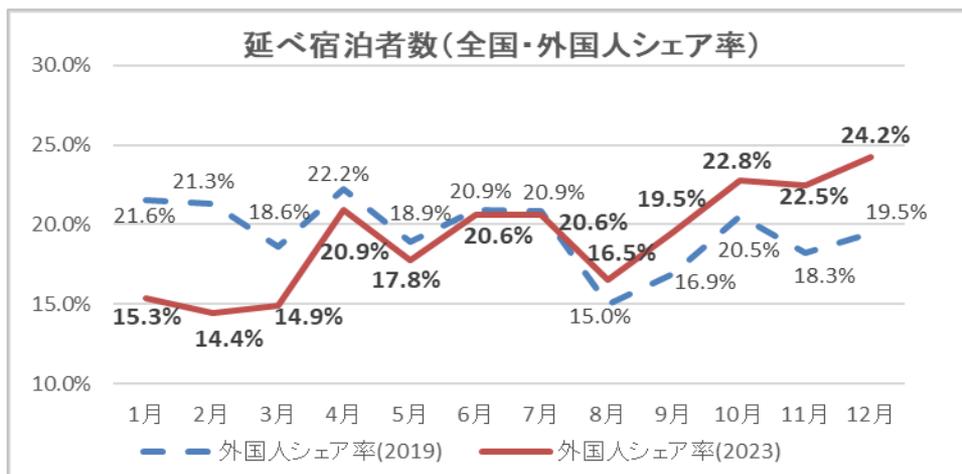
2023年 全国延べ宿泊者数



コロナ前を超えた回復 インバウンドが好調

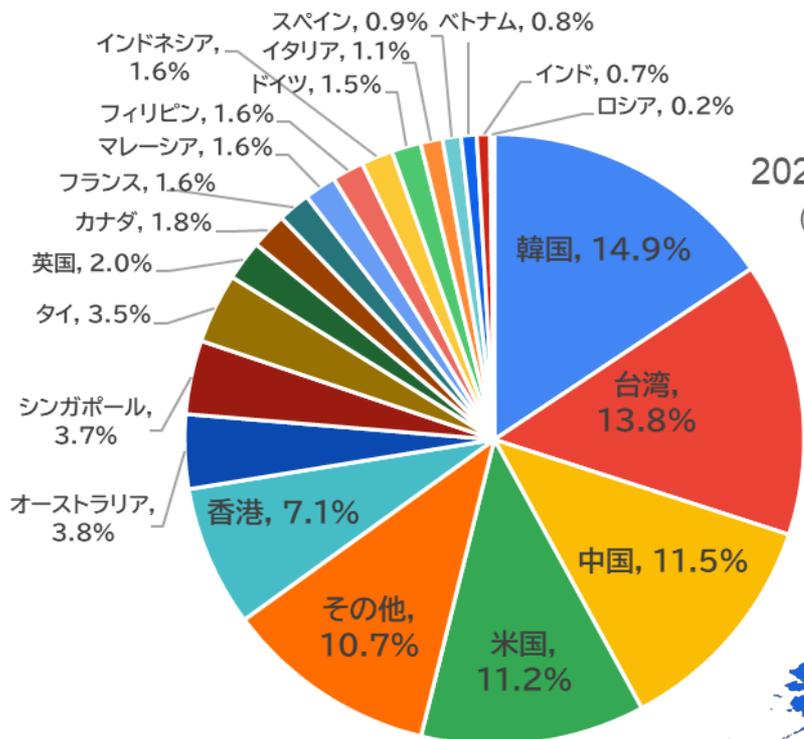
- ・2023年 全国の延べ宿泊者数は、**渡航緩和1年後の9月以降、完全にコロナ前を超えて推移した。**
- ・コロナ前比較でいうと、7月までは国内旅行者の方が戻りが良かったものの、8月以降はインバウンドの回復が著しく進み、2023年12月時点で、2019年12月の1.3倍を記録。
- ・**2023年年間延べ宿泊者数は、2019年の99.5%**にあたる592,752,190人泊となった。
- ・延べ宿泊者数のうち、外国人のシェアを見てみると、8月以降2019年を上回るシェアを記録したことが分かる。
- ・2023年12月は24.2%を記録。宿泊者の約4分の1が外国人となった。

→国籍別分析は次ページへ

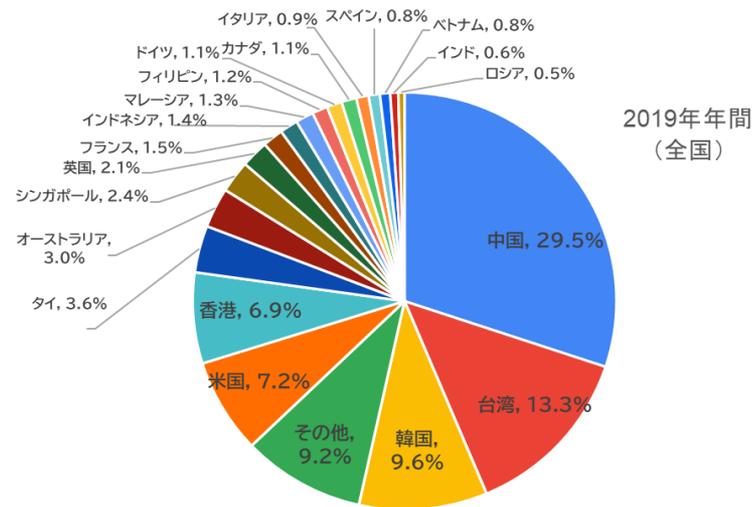


2023年 年間延べ宿泊者数 速報値 (全国)

■ 全国延べ宿泊者数(国籍別)

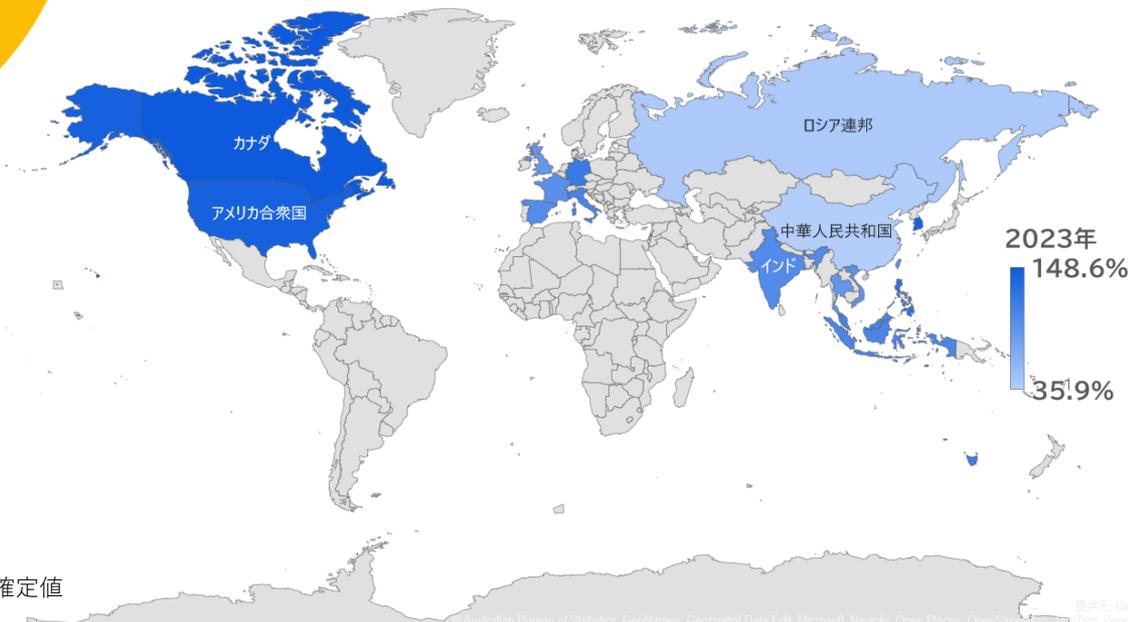


2023年年間 (全国)



2019年年間 (全国)

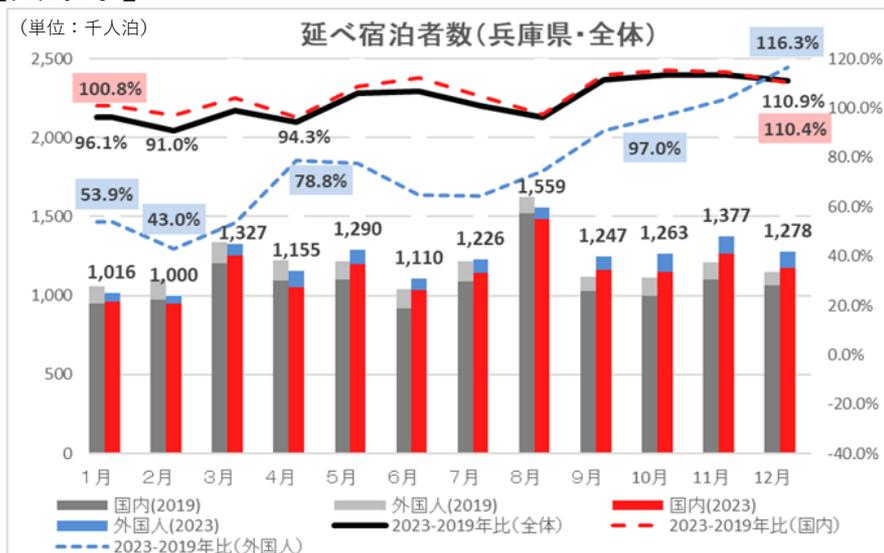
■ 2023年 2019年比



- ・ 国籍別では、外客数も大きな伸びを見せた韓国が全体の約15%を占めた。2019年は中国が全体の約30%を占めていたことを鑑みると、2023年は中国の回復の遅さに加え、旅行者の国籍の多様化が認められた。
- ・ 2019年と比較すると、年間で、韓国、アメリカ、カナダ、シンガポールが約1.4倍の延べ宿泊者数となっている。

2023年 年間延べ宿泊者数 速報値 (周辺エリア)

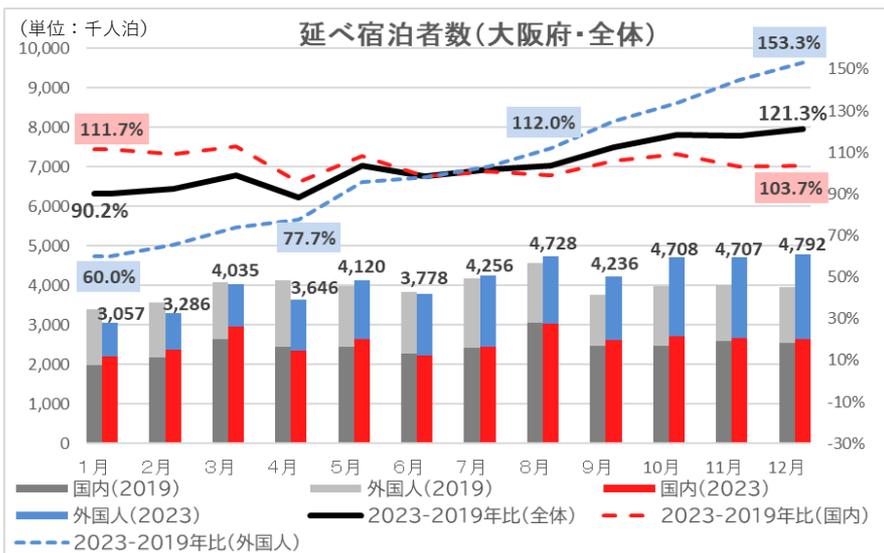
【兵庫県】



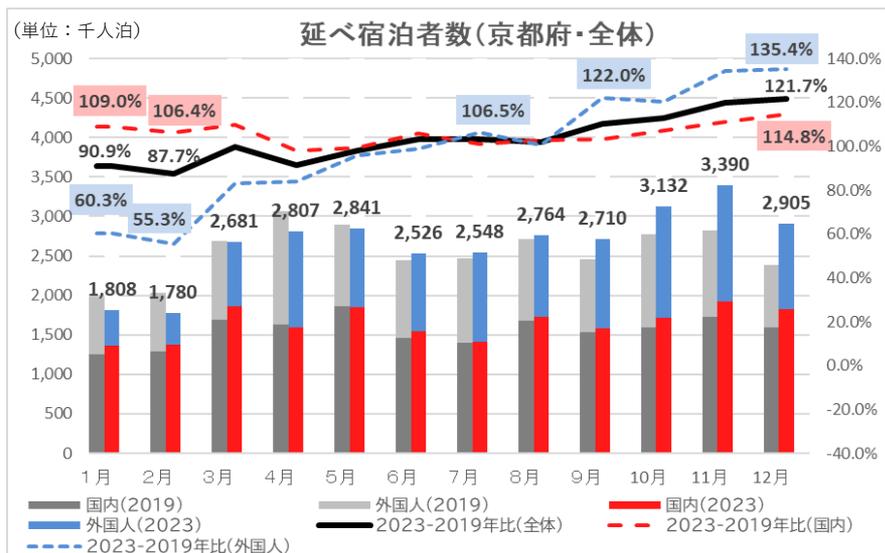
2023年 年間傾向・分析

- 京阪神での比較では、大阪府が順調に推移しているのが分かる。
6月ごろからコロナ前水準を超え始め、12月のインバウンドは2019年比で153.3%にも上った。
- 京都府のインバウンドも夏～秋以降は、コロナ前を上回る回復を見せている。
- 10月以降は大阪・京都ともに約半数がインバウンドとなっている状態。
- 兵庫県は国内旅行者により宿泊者数が支えられた状態であった。
インバウンドは10月(2019年比:97%)からコロナ前水準に回復し、その後コロナ前を超える回復を見せている。

【大阪府】



【京都府】

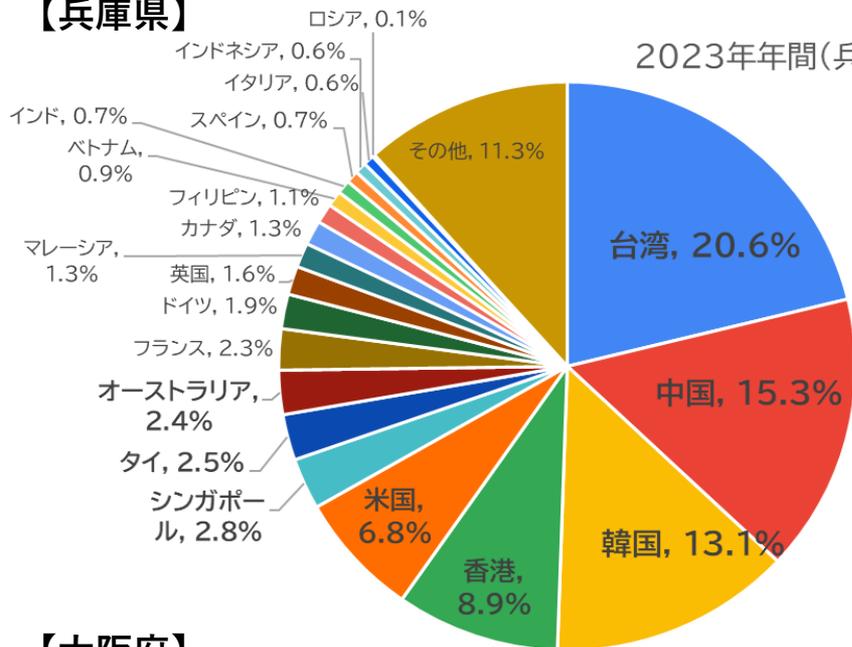


出典：【兵庫県・大阪府・京都府】観光庁「宿泊旅行統計調査」
・ 2023年第2次速報値

2023年 年間延べ宿泊者数 速報値 (周辺エリア)

【兵庫県】

2023年年間(兵庫県)



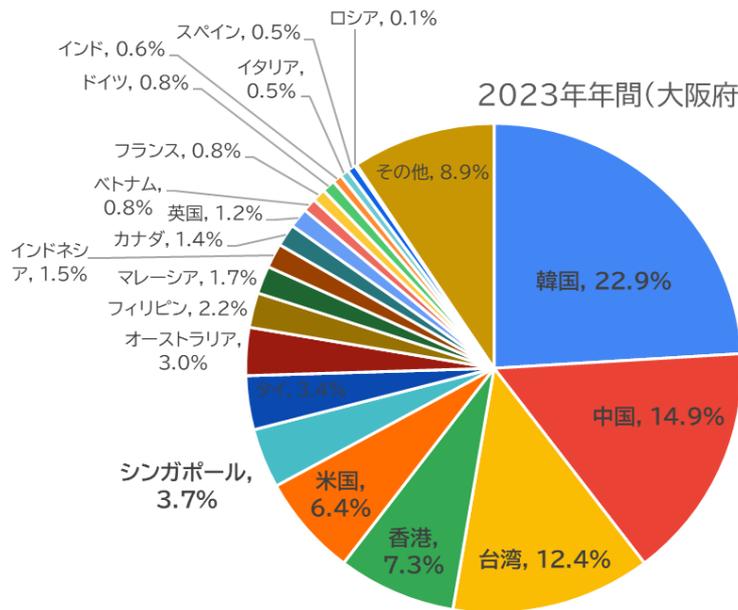
2023年 年間傾向・分析

- 兵庫県は、第1位:台湾、第2位:中国、第3位:韓国という結果となり、香港を含めた東アジアが全体の57.9%を占めた。
- 大阪府は、2023年の訪日外客数(全国)でも大きな伸びを見せていた韓国が1位となり、次いで、中国、台湾と続いた。
- 京都府は、米国が1位。中国、台湾、韓国と東アジアも多いが、東アジアは全体の36.4%しかなかった。代わりに欧米豪など様々な国からの宿泊者が多くなっている。

出典：【兵庫県・大阪府・京都府】観光庁「宿泊旅行統計調査」
・2023年第2次速報値

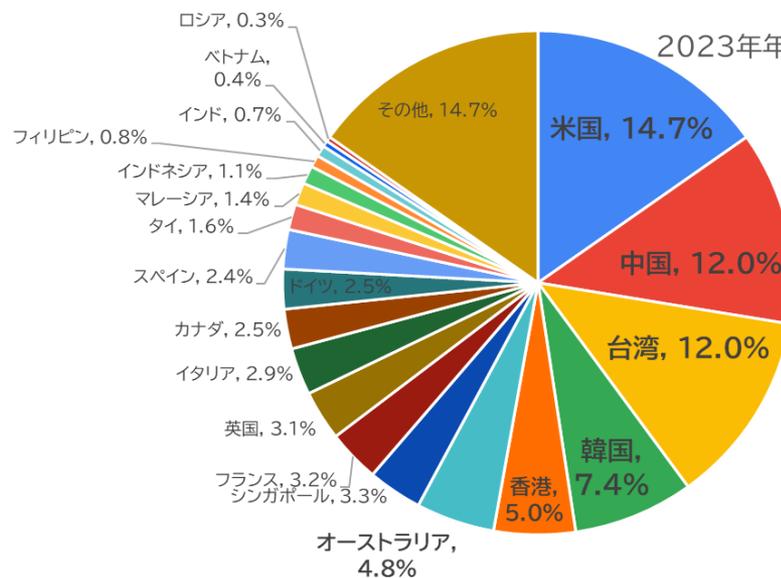
【大阪府】

2023年年間(大阪府)

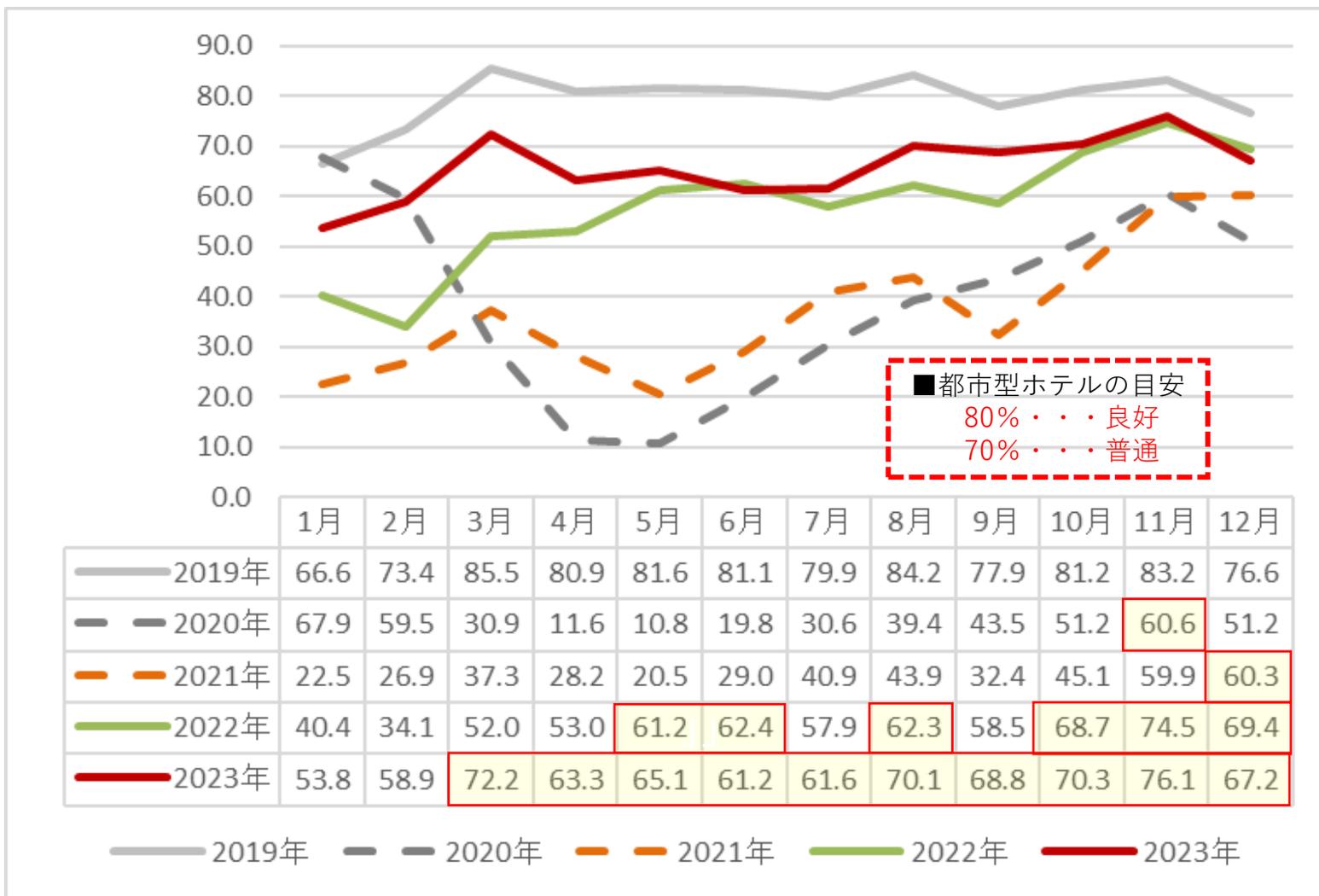


【京都府】

2023年年間(京都府)



2023年 年間市内ホテル平均稼働率



※10社ベース

- ・年間で見ると3月以降は稼働率が継続して6～7割を記録し、観光需要の回復を感じさせる。
- ・一方、2019年の稼働率と比較すると、10～20pt低い状態で推移した。
- ・宿泊施設の人手不足により、客室の一部の販売を制限する傾向があるため、稼働率が戻りにくい状態が続いている。

市内宿泊の動向②

(国内OTAデータ モニタリング年報)

国内OTA モニタリング 2023年 年間報告①

- 2023年年間では、神戸の国内観光におけるOTA実績について、**取扱額（＝人泊数×客単価）は堅調に推移**。
- 全エリア・クラスにおいて、**物価高騰等やインバウンド需要の高まりで客単価が上昇したことにより、人泊数の戻りは遅くとも売上は維持できた状態**。
- **人泊数**については、**宿泊施設の人材不足などを理由とした稼働制限**なども一部にみられ、年間の延べ宿泊者数は821,870人泊となり、2019年比97.2%の回復となった。

神戸市全域 人泊数



人泊数

2023年年間 2019年比：97.2%

平均客単価の推移 (神戸市ALL)



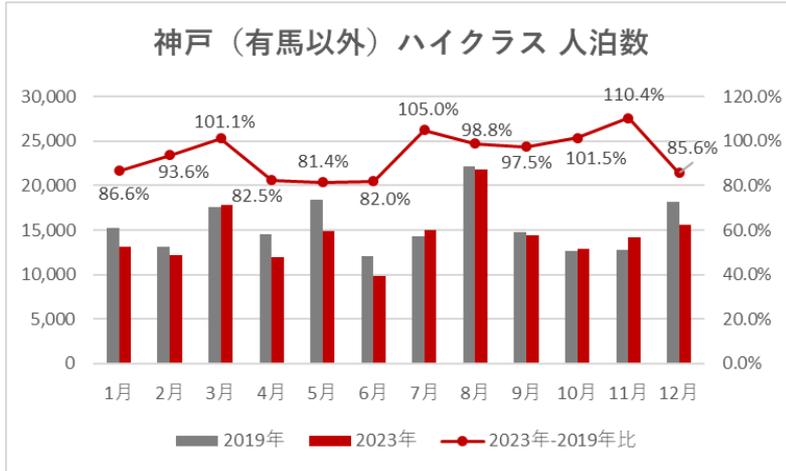
年間平均客単価

2023年 年平均 2019年比：110.6%

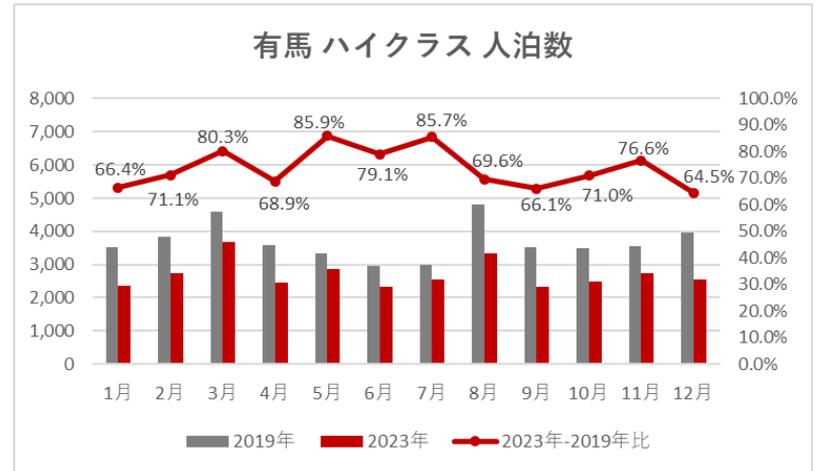
※OTAとは、「Online Travel Agent」の略称。オンライン上のみで旅行商品等を販売する旅行会社のこと。代表的な国内OTAは、じゃらんnet、楽天トラベル、一休、JTBるぶトラベル等。上記で掲載しているデータは、某国内大手OTA経由の状況を掲載。神戸市内の宿泊施設 約150施設への月別データ（チェックアウトベース）となっている。よって、国内旅行者の全ての販路を集計しているわけではないが、特に平日のビジネス需要も含めた個人旅行の傾向を分析するには有効なものと考えている。

■ 人泊数はコロナ水準まで回復しているエリアも

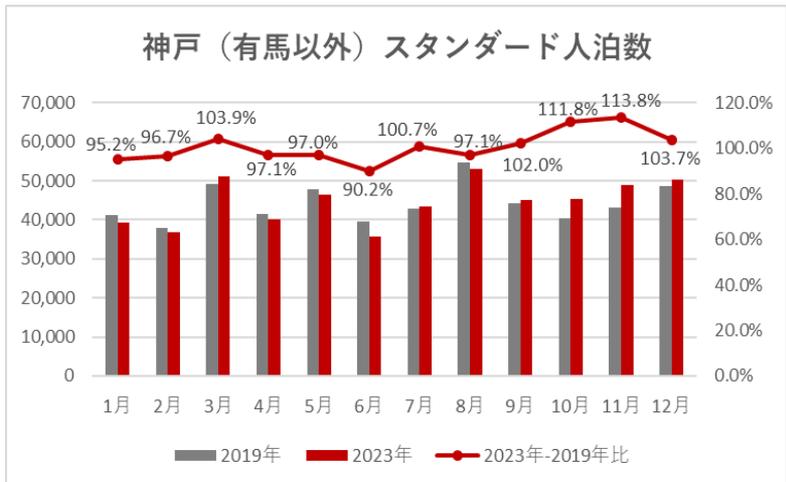
人泊数については、宿泊施設の人材不足などを理由とした稼働制限なども一部にみられたものの、順調に回復。ただし、年間の延べ宿泊者数でコロナ前と同水準となったのは「神戸（有馬以外）のスタンダード」のみであった。
※便宜上、ハイクラス以外の施設を「スタンダード」と表記しています。



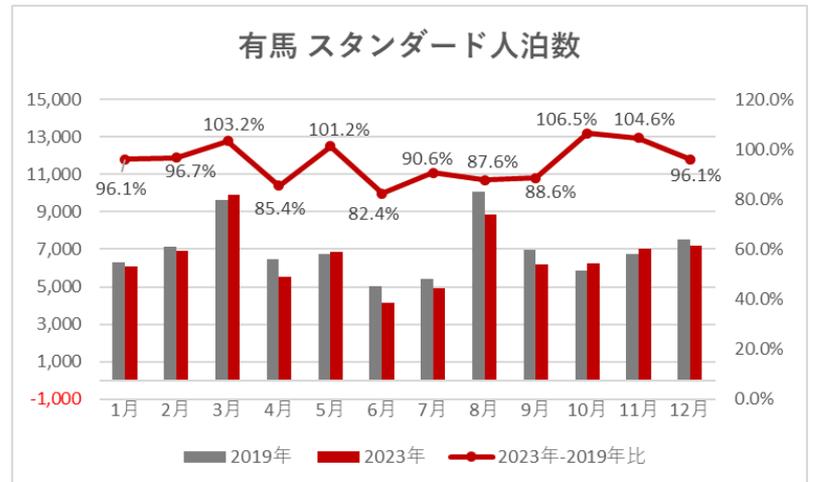
2023年年間 2019年比：93.6%



2023年年間 2019年比：73.4%



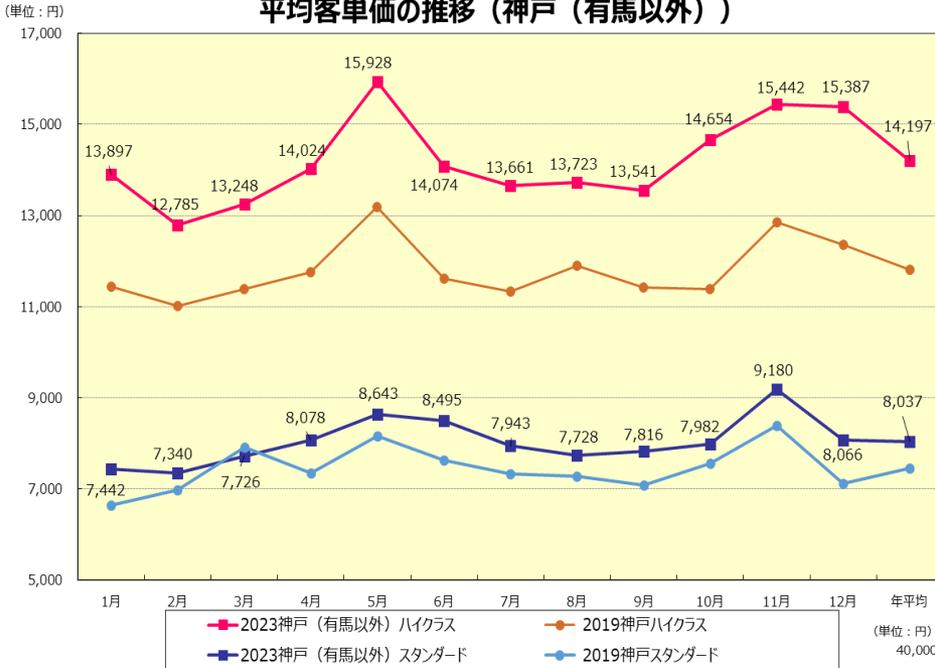
2023年年間 2019年比：100.8%



2023年年間 2019年比：95.2%

■ 高単価な状況が続いている（有馬以外）

平均客単価の推移（神戸（有馬以外））



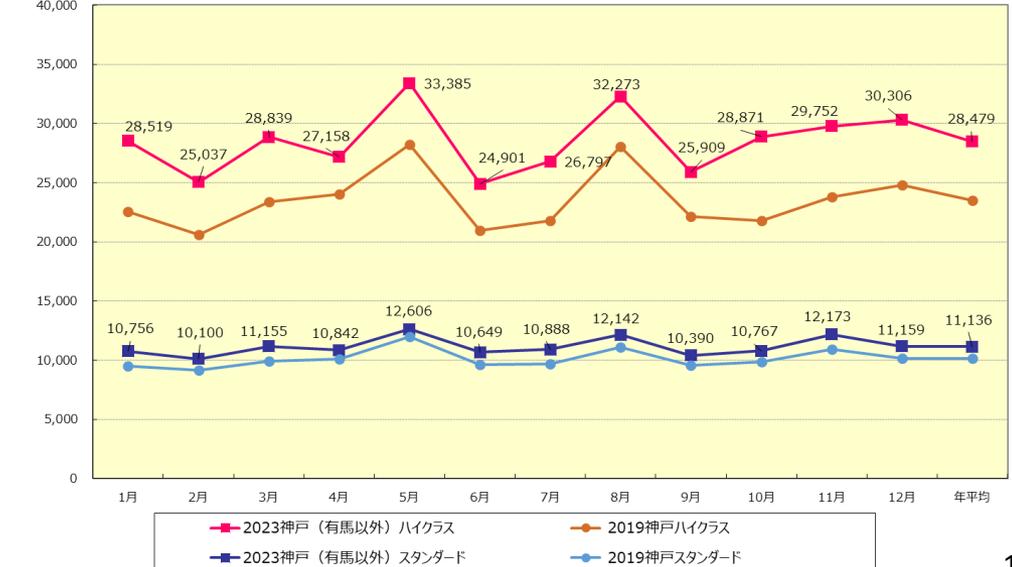
平均客単価の推移

- 物価高騰、人手不足などの影響もあり、平均単価の高止まりが続く。
- 神戸（有馬以外）のエリアにおいては若干5月・11月～12月にかけて単価の上昇があったものの、横ばい状態が続くことが多かった。
- 2019年との比較では、年間平均で見ると神戸ハイクラスで2019年比約120%、スタンダードで2019年比約108%となった。

平均部屋単価の推移

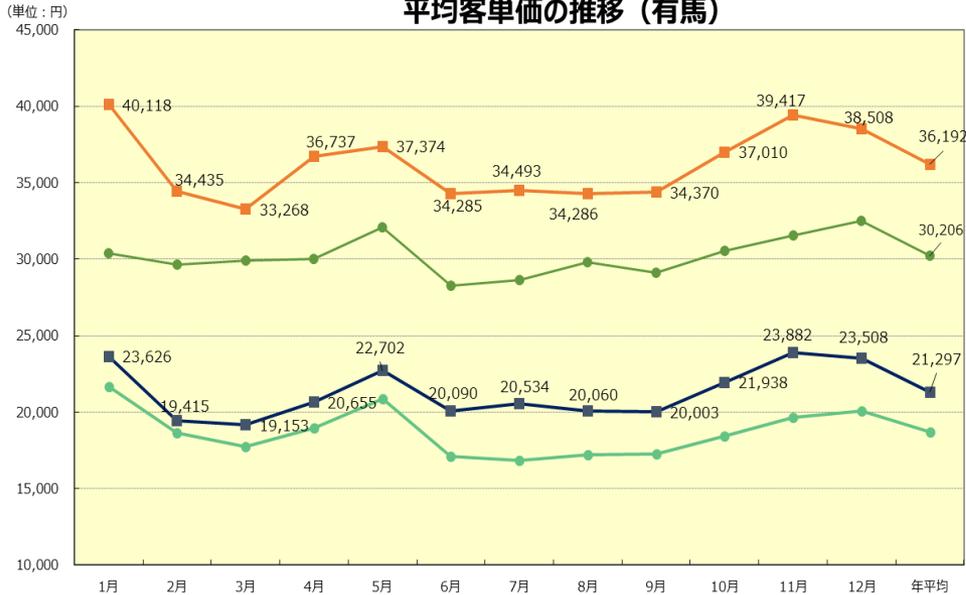
- ゴールデンウィーク（5月）、夏休み（8月）にグループサイズが大きくなる影響もあり、部屋単価が上昇傾向。
- 客単価も同様だが、スタンダードよりもハイクラスの方が、2019年と比較して単価の上昇が大きいことが分かる。

平均部屋単価の推移（神戸（有馬以外））



■ 高単価な状況が続いている（有馬）

平均客単価の推移（有馬）



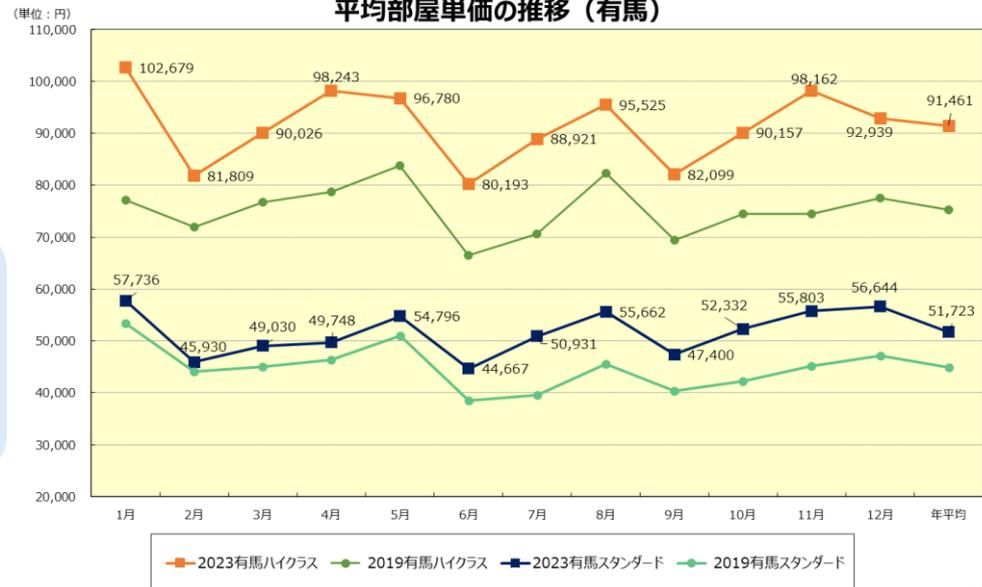
平均客単価の推移

- 物価高騰、人手不足などの影響もあり、平均単価の高止まりが続く。
- 紅葉シーズンである11月にかけて有馬エリアの単価が上昇したことが分かる。
- 2019年との比較では、年間平均で見ると有馬ハイクラスで2019年比約120%、スタンダードで2019年比約114%となった。

平均部屋単価の推移

- お正月（1月）、桜シーズン（4月）、夏休み（8月）、紅葉シーズン（11月）に、部屋単価が上昇傾向。
- 有馬ハイクラスの部屋単価は、年間平均でも9万円台と高い状態が続いた。

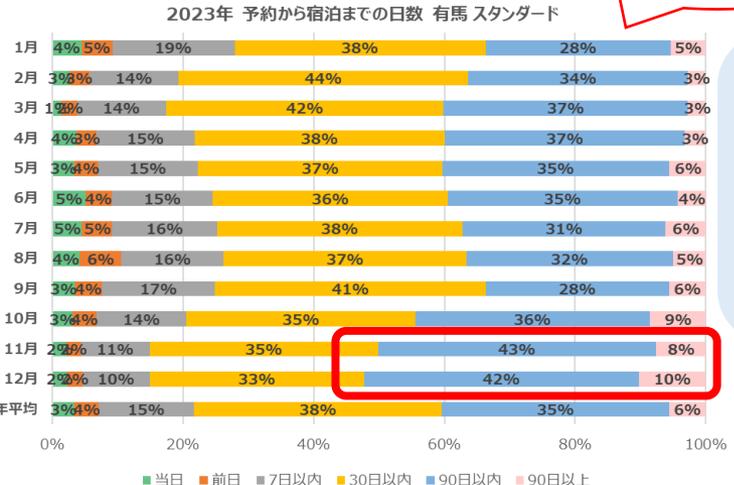
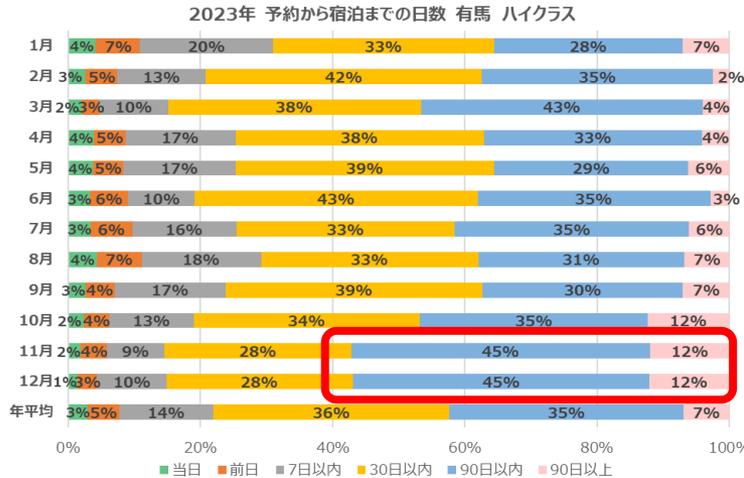
平均部屋単価の推移（有馬）



■ 引き続き予約のリードタイムは延伸傾向

【有馬エリア】

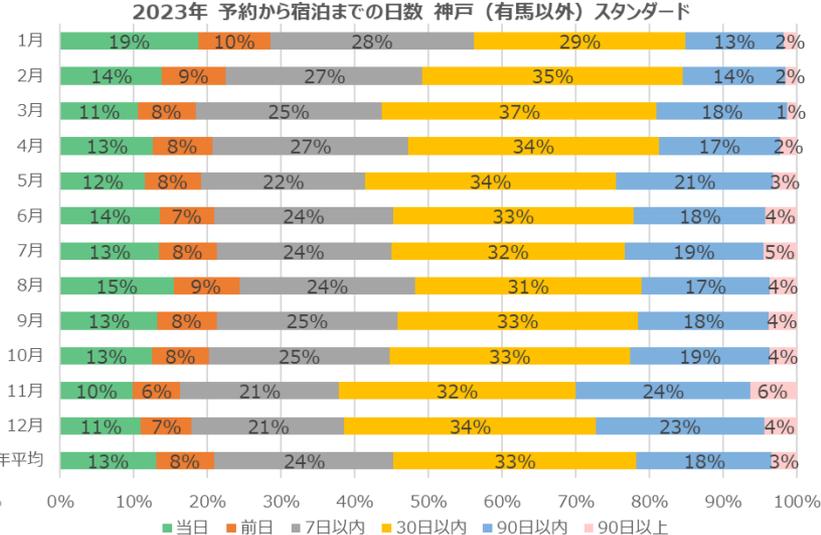
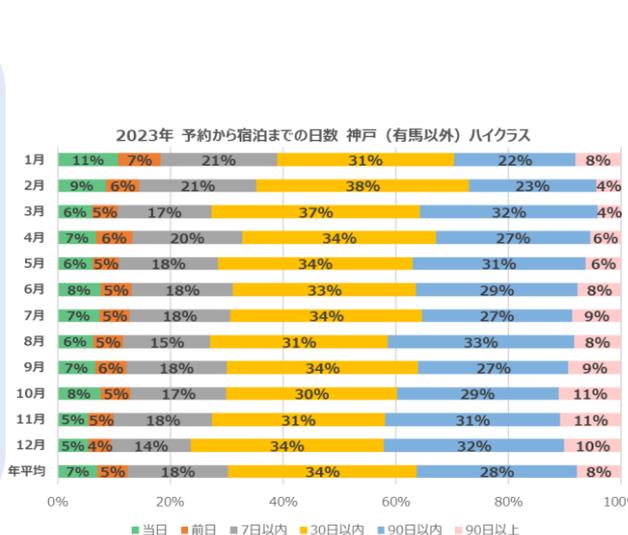
11月～12月は
90日以内・90日以上が
半数以上に



■ 有馬エリアで特にハイクラスにおいて、リードタイムの延伸傾向が顕著に表れている。
■ エリア全体で見ると、特に11月～12月の半数以上が90日以内・90日以上となっていた。

【神戸（有馬以外）エリア】

■ 有馬以外のエリアでもハイクラスではリードタイムの延伸傾向が確認できる。
■ 一方、スタンダードでは、いまだ当日・前日の比率も高い。ホテルによっては、人員不足により在庫を抑えながら販売しているものの、素泊まり限定で直前割等を実施しているところもあるため、このような傾向が出ているものと推察している。



国内OTA モニタリング 2023年 年間報告⑥

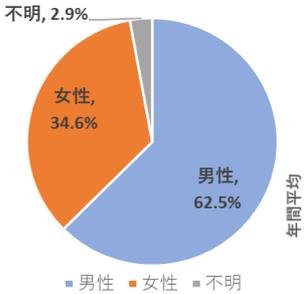


【神戸（有馬以外）エリア】

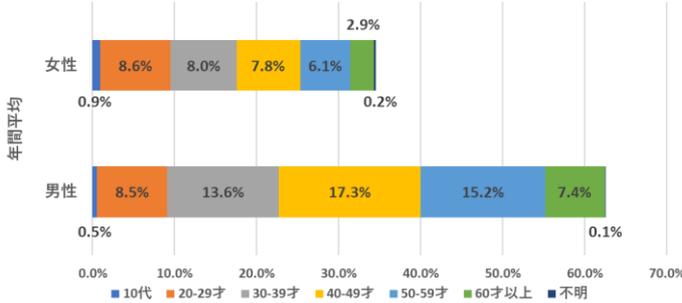
- 有馬以外の神戸市内においては、国内OTAが得意とする平日のビジネス客の傾向が強く出た形となった。
- 特にスタンダードにおいては、予約者の6割が男性、40～50歳代の年代が最も多かった。またスタンダードではグループサイズも1人が最も多くなった。
- 一方ハイクラスでは、男女比がほぼ半数ずつとなり、年代もスタンダードと比較すると均等になる。
グループサイズは2名、居住地は兵庫県内・大阪府が最も多くなった。

性別・年代

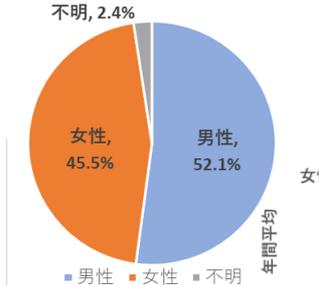
性別 年間平均(神戸スタンダード)



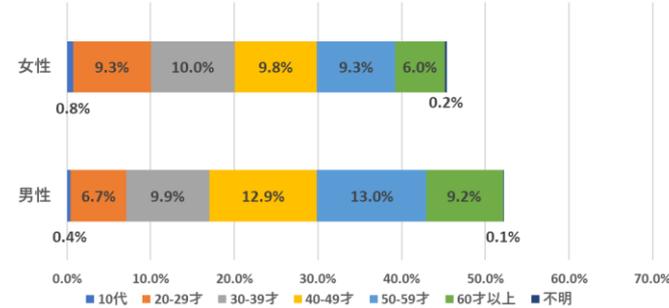
2023年 性別ごと年代(神戸スタンダード)



性別 年間平均(神戸ハイクラス)



2023年 性別ごと年代(神戸ハイクラス)



グループサイズ

【神戸スタンダード】

グループサイズ	1人	2人	グループ(3人以上)	ファミリー	女性のみのグループ
1-3月	58.5%	30.5%	5.4%	5.6%	21.3%
4-6月	62.4%	28.0%	4.7%	4.9%	20.7%
7-9月	59.7%	28.0%	5.4%	6.9%	21.2%
10-12月	63.1%	27.4%	4.9%	4.6%	20.3%
年間平均	60.9%	28.5%	5.1%	5.5%	20.9%

【神戸ハイクラス】

グループサイズ	1人	2人	グループ(3人以上)	ファミリー	女性のみのグループ
1-3月	24.5%	47.9%	12.0%	15.6%	19.2%
4-6月	28.5%	46.7%	10.2%	14.6%	18.3%
7-9月	24.8%	43.8%	12.6%	18.9%	18.8%
10-12月	26.6%	50.3%	10.3%	12.9%	19.5%
年間平均	26.1%	47.2%	11.2%	15.5%	19.0%

予約者居住地

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	兵庫県	17.2%	東京都	14.9%	兵庫県	14.8%	東京都	14.6%
2位	東京都	13.3%	兵庫県	14.4%	東京都	13.9%	兵庫県	13.6%
3位	大阪府	8.6%	大阪府	7.5%	大阪府	7.6%	大阪府	7.7%
4位	神奈川県	6.5%	神奈川県	6.9%	神奈川県	6.9%	神奈川県	7.2%
5位	愛知県	5.6%	愛知県	5.4%	愛知県	5.6%	愛知県	5.6%

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	兵庫県	17.8%	兵庫県	15.7%	兵庫県	14.8%	兵庫県	15.7%
2位	大阪府	12.6%	大阪府	11.5%	大阪府	12.4%	大阪府	11.8%
3位	東京都	9.8%	東京都	10.9%	東京都	10.1%	東京都	10.2%
4位	愛知県	7.1%	愛知県	6.6%	愛知県	6.4%	愛知県	7.0%
5位	神奈川県	4.3%	神奈川県	4.4%	神奈川県	4.1%	神奈川県	4.4%

国内OTA モニタリング 2023年 年間報告⑦

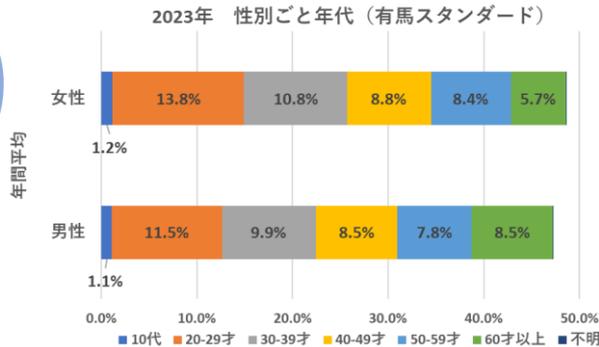
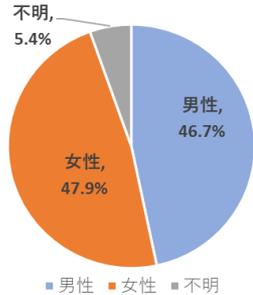


【有馬エリア】

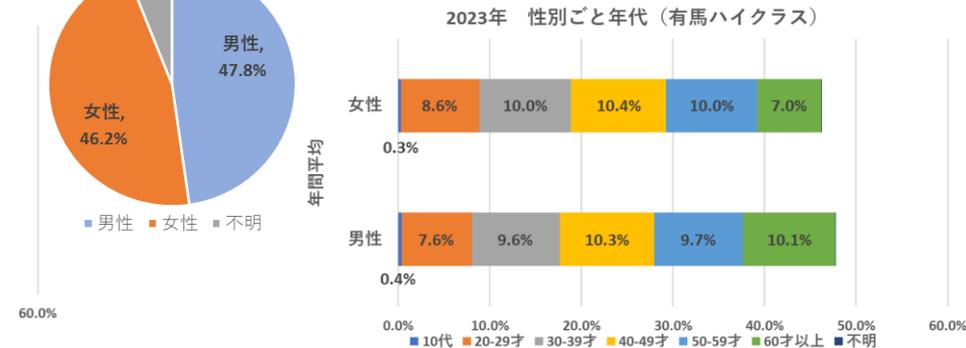
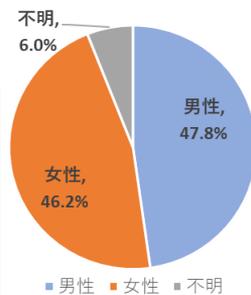
- 有馬エリアにおいては、神戸（有馬以外）エリアと異なり、クラス関係なく男女比はほぼ半数ずつであり、大阪府からの予約者が最も多くなった。
- クラスごとに見ていくと、スタンダードにおいては、男女ともにより若年層の割合が高くなり、ハイクラスに比べてファミリーや女性のみグループの割合が高くなった。
- 一方ハイクラスでは、30代以上の割合が均等に分布しており、かつ2人程度の少人数で予約が多く入る傾向が見られた。

■ 性別・年代

性別 年間平均(有馬スタンダード)



性別 年間平均(有馬ハイクラス)



■ グループサイズ

【有馬スタンダード】

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみグループ
1-3月平均	8.2%	56.6%	21.2%	14.0%	20.5%
4-6月平均	11.8%	55.0%	17.7%	15.4%	17.6%
7-9月平均	10.1%	49.5%	20.0%	20.4%	15.5%
10-12月平均	9.6%	57.0%	19.8%	13.6%	17.8%
年間平均	9.9%	54.5%	19.7%	15.8%	17.9%

■ 予約者居住地

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	大阪府	22.4%	大阪府	20.3%	大阪府	20.2%	大阪府	18.2%
2位	兵庫県	13.4%	兵庫県	12.8%	兵庫県	12.7%	兵庫県	12.0%
3位	愛知県	8.7%	愛知県	8.0%	愛知県	8.4%	愛知県	8.3%
4位	東京都	6.6%	東京都	7.1%	東京都	7.0%	東京都	7.4%
5位	京都府	5.8%	京都府	4.4%	京都府	4.1%	その他+不明	7.0%

【有馬ハイクラス】

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみグループ
1-3月	4.6%	58.7%	24.2%	12.5%	15.2%
4-6月	4.9%	58.2%	24.1%	12.8%	15.7%
7-9月	6.3%	53.7%	21.9%	18.1%	12.5%
10-12月	4.2%	61.5%	24.3%	9.9%	16.0%
年間平均	5.0%	58.0%	23.6%	13.3%	14.9%

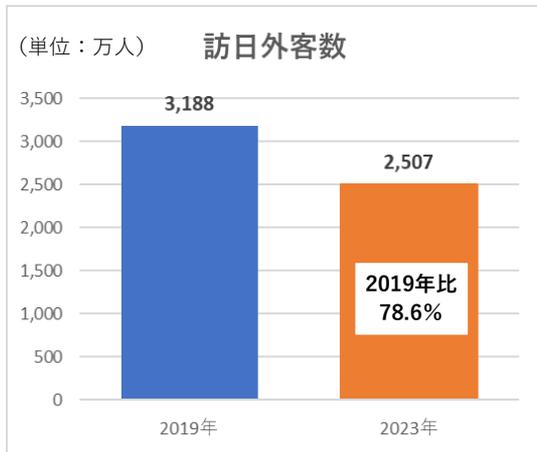
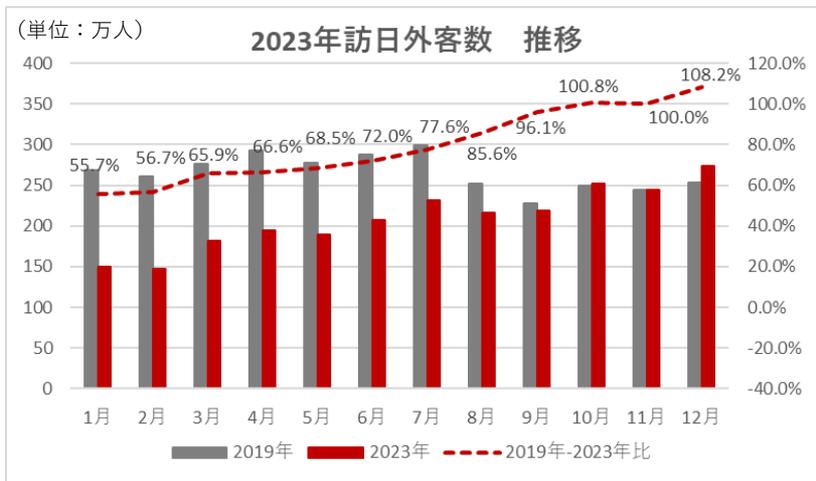
順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	大阪府	24.5%	大阪府	23.0%	大阪府	23.9%	大阪府	22.0%
2位	兵庫県	13.5%	兵庫県	14.0%	兵庫県	15.3%	その他+不明	12.5%
3位	その他+不明	8.5%	その他+不明	8.6%	東京都	7.4%	兵庫県	11.7%
4位	愛知県	7.2%	東京都	7.1%	その他+不明	7.3%	東京都	7.1%
5位	東京都	6.4%	愛知県	6.9%	愛知県	6.3%	愛知県	6.0%

全国のインバウンドに関する情報
(訪日外客数／訪日外国人消費動向)

2023年年間 訪日外客数

2023年計 2500万人を突破。コロナ前の約78%まで回復。

- ・ 2023年計 25,066,100 人（速報値：2019年比78.6%）まで回復。
- ・ 2022年10月の渡航緩和以降、右肩上がりに外客数は回復。
特に10月以降はコロナ前を超える勢いで回復するなど好調だった。
- ・ 国籍別では韓国やアメリカからの外客数がコロナ前の約120%となった。
- ・ なお、2024年も引き続き外客数は右肩上がりに回復しており、2024年3月には単月で初めて300万人を突破。



国・地域	2023 総数			
	2019年 1月～12月	2023年 1月～12月	(順位)	2019比 (%)
韓国	5,584,597人	6,958,500人	(1位)	124.6%
台湾	4,890,602人	4,202,400人	(2位)	85.9%
中国	9,594,394人	2,425,000人	(3位)	25.3%
香港	2,290,792人	2,114,400人	(4位)	92.3%
米国	1,723,861人	2,045,900人	(5位)	118.7%
タイ	1,318,977人	995,500人	(6位)	75.5%
フィリピン	613,114人	622,300人	(7位)	101.5%
豪州	621,771人	613,100人	(8位)	98.6%
シンガポール	492,252人	591,300人	(9位)	120.1%
ベトナム	495,051人	573,900人	(10位)	115.9%

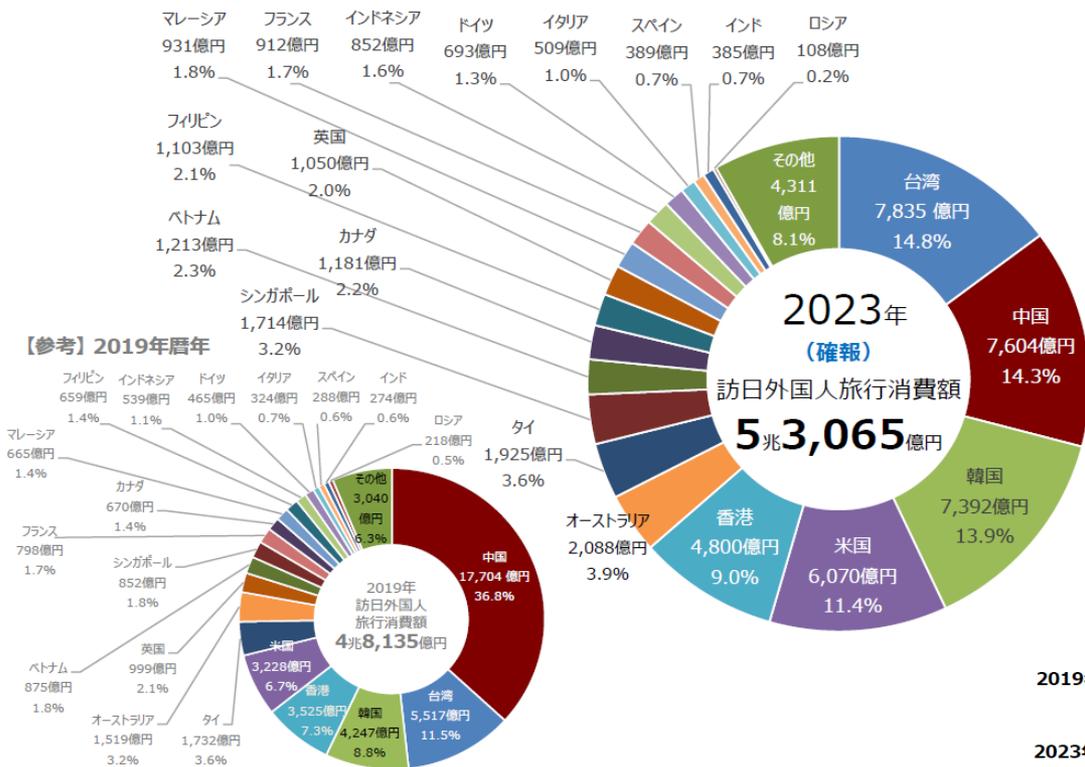
出典：日本政府観光局(JNTO)1/17プレスリリース「訪日外客数(2023年12月推計値)」
https://www.into.go.jp/statistics/data/20240117_monthly.pdf

2023年年間 訪日外国人消費額（確報）①

2023年計 5.3兆円と過去最高。コロナ前を超え、2019年比約110%まで回復。

- ・ 2023年計 5兆3,065億円（2019年比110.2%）と過去最高を記録。
2019年計は4兆8,135億円であったことから、コロナ前の最高値を5,000億円近く上回った。
- ・ 2023年3月に閣議決定した「観光立国推進基本計画」における目標値「訪日外国人旅行消費額：5兆円」を早くも達成。
- ・ 消費額増加の要因としては、円安や宿泊日数の増加などだけでなく、
物価の上昇なども起因していると思われるため、真に稼げる地域が増えたか、引き続き注視が必要。

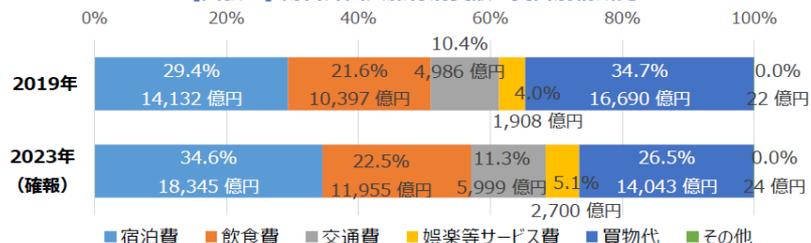
【図表1】国籍・地域別にみる訪日外国人旅行消費額と構成比



◀ 国籍別の動向として、2019年は「爆買い」が注目された中国旅行者の消費が全体の4割を占めていた一方、2023年は中国以外の東アジアを始めとした各市場の回復が急速に高まったこと、中国の回復の遅れや消費動向の変動により、各市場のシェアがある程度均一になった。

▼ 費目別にみると、やはり「買物代」が減少した。2019年には全体の34%を占めていた「買物代」は、2023年は全体の26%となった。

【図表2】訪日外国人旅行消費額の費目別構成比



出典：観光庁「【訪日外国人消費動向調査】2023年暦年調査結果（確報）の概要」

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001734815.pdf>

2023年年間 訪日外国人消費額（確報）②

- ・消費動向調査（全目的）の1人あたり旅行支出は平均21万2千円。
- ・参考：観光立国推進計画（2025.3決定）における、2025目標値 訪日外国人旅行消費額単価：20万円／人
- ・「観光・レジャー目的のみ」の集計では、1人あたり平均20万4千円と上記目標値を達成。
- ・観光・レジャー目的のみで、1人あたり最も支出総額が多いのはイギリス（1人当たり総額：37万3千円）。
- ・なお、観光・レジャー目的のみで、1人1泊あたりの支出が最も多いのは、中国（1泊：38,015円）。
- 中国旅行者は、他の国と比較すると、引き続き買い物での消費が多い。

【図表6】国籍・地域別にみる一般客1人当たり費目別旅行支出（観光・レジャー目的）

2023年暦年（確報）

（円／人）（泊）

国籍・地域	訪日外国人1人当たり旅行支出【観光・レジャー目的】								平均泊数 注		1泊あたり
	総額	2019年比	宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等 サービス費	買物代	その他	2019年差		
全国籍・地域	204,047	+31.4%	69,746	46,084	23,852	9,097	55,192	77	6.9	+0.8泊	29,572
韓国	101,110	+47.4%	32,415	27,726	8,858	5,630	26,388	93	3.6	+0.3泊	28,086
台湾	180,510	+58.3%	50,422	39,361	18,403	7,967	64,356	0	5.8	+0.7泊	31,122
香港	223,875	+45.4%	69,434	53,085	22,390	9,090	69,735	139	6.5	+1.0泊	34,442
中国	285,115	+34.7%	78,000	52,273	24,661	9,830	120,246	105	7.5	+1.6泊	38,015
タイ	192,702	+55.2%	59,844	43,161	27,183	7,727	54,748	39	6.5	+0.8泊	29,646
シンガポール	299,373	+57.7%	107,324	62,686	35,756	13,496	80,112	0	9.1	+1.1泊	32,898
マレーシア	230,732	+73.9%	76,646	50,171	28,000	9,530	66,382	3	7.6	+0.7泊	30,359
インドネシア	213,441	+53.7%	76,132	40,544	30,245	8,978	57,542	0	7.9	+0.4泊	27,018
フィリピン	196,038	+66.1%	64,948	39,493	24,244	10,893	56,452	8	7.4	-1.1泊	26,492
ベトナム	205,114	+41.5%	59,256	40,458	25,272	6,152	73,976	0	6.0	-0.6泊	34,186
インド	308,616	+73.1%	104,947	50,735	44,219	10,977	97,738	0	9.9	-0.9泊	31,173
英国	373,025	+48.0%	165,611	77,657	54,689	18,665	56,153	251	13.7	+2.2泊	27,228
ドイツ	330,929	+39.1%	148,155	78,230	53,112	11,314	40,040	79	15.2	+1.2泊	21,772
フランス	343,891	+34.0%	148,768	74,501	53,627	12,853	54,123	19	16.3	+1.8泊	21,098
イタリア	334,700	+49.4%	144,263	81,834	56,340	12,903	39,277	83	12.5	-1.0泊	26,776
スペイン	346,703	+50.8%	138,801	82,854	67,672	12,642	44,671	63	14.7	+2.0泊	23,585
ロシア	253,426	+45.6%	100,902	63,082	39,878	8,488	41,076	0	17.1	+7.1泊	14,820
米国	324,610	+59.9%	139,797	72,290	45,989	14,966	51,277	291	11.0	+1.6泊	29,510
カナダ	299,467	+60.1%	126,042	70,056	44,137	13,282	45,950	0	12.3	+1.2泊	24,347
オーストラリア	359,500	+38.1%	146,535	80,691	53,860	22,852	55,525	37	14.0	+1.2泊	25,679
その他	342,961	+53.2%	143,243	77,560	51,543	12,873	57,736	6	13.8	+0.3泊	24,852

※「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加え、ビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。

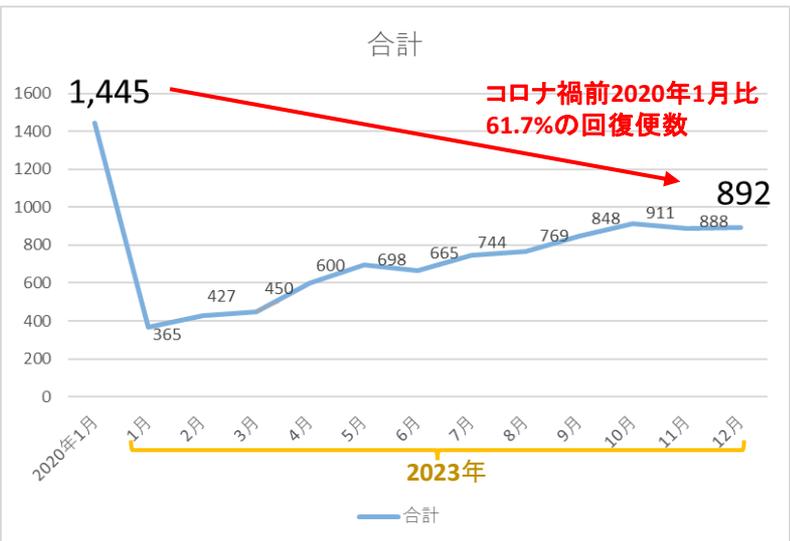
交通機関に関する情報
(航空業界の状況／クルーズ船寄港状況)

2023年年間 関西国際空港国際線就航状況 ～KTBターゲット12か国～



関西国際空港 1週間当たりの便数 コロナ禍前の61.7% (2023年12月 ターゲット国すべて)

	2020年 1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
英国	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フランス	6	3	3	3	5	5	5	4	4	4	3	3	3
豪州	12	3	4	4	5	5	5	5	7	7	7	5	7
米国	78	—	—	—	11	11	11	11	11	14	14	14	14
中国	630	8	8	8	98	125	161	157	197	213	227	221	198
台湾	169	73	75	91	101	101	101	94	112	119	112	112	112
香港・マカオ	117	59	66	69	69	118	82	96	94	96	134	124	122
韓国	244	196	238	239	265	282	246	296	263	310	325	313	338
タイ	47	18	18	21	31	36	36	42	42	43	47	47	49
マレーシア	14	5	15	15	15	15	18	18	18	21	21	21	21
インドネシア	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シンガポール	116	—	—	—	—	—	—	21	21	21	21	28	28
合計	1445	365	427	450	600	698	665	744	769	848	911	888	892



※1週間に就航している便数

※便数、ダイヤは調査日によって変動
 ※米国は2023/4～、シンガポールは2023/7～ 調査開始

便数上位4エリアの推移



関西エアポート発表情報より作成

「国際線運行状況」の1週間に就航している便数をカウントし、定点調査を実施
 (実際の便数は、気象状況やダイヤの変更などで変動)

コロナ前(2020年1月)と比較することで、地域ごとの航空便数・回復状況を知ることが出来る。

※本調査は、2023年12月で終了

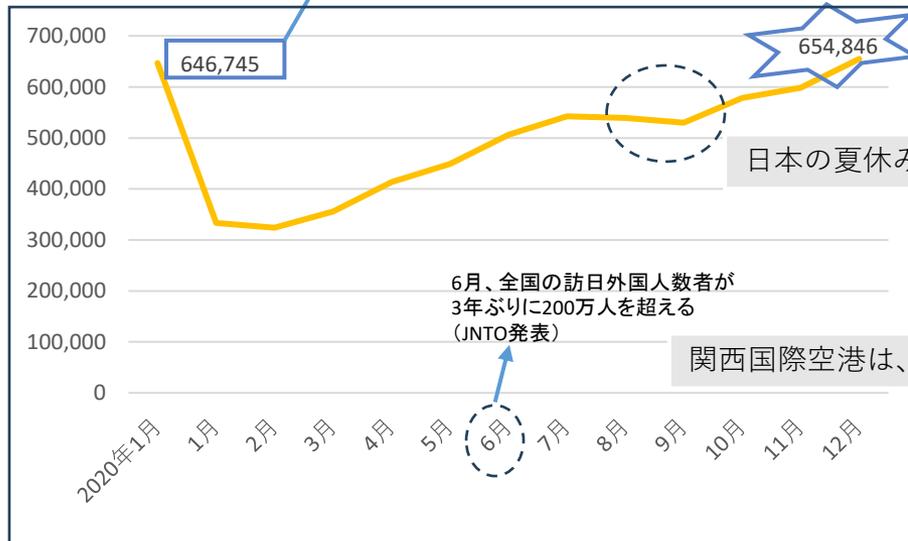
2023年年間 関西国際空港国際線入国状況 ～KTBターゲット12か国～



神戸観光局がターゲットとする主な国からの入国者数をレポートしている（関西国際空港国際線）

	2020年1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
英国	3,526	1,879	1,749	3,931	3,811	3,316	2,671	3,618	3,087	3,829	4,715	4,068	3,547
フランス	2,271	1,324	1,808	3,644	5,769	5,441	3,374	4,556	3,866	3,567	5,495	4,498	2,615
豪州	11,956	6,964	3,822	6,385	8,226	6,090	5,653	4,118	3,498	10,448	9,018	8,958	14,592
米国	12,756	7,100	6,087	17,020	20,690	23,048	29,567	20,859	13,484	14,876	20,187	19,232	19,232
中国	328,191	7,109	8,540	18,157	35,857	58,039	92,662	124,678	151,351	127,624	96,536	102,665	114,873
台湾	102,205	60,196	59,164	69,566	73,493	79,576	101,540	99,848	100,327	94,542	109,055	104,096	96,485
香港	51,421	49,918	37,665	48,240	44,399	46,007	51,857	61,447	57,539	41,114	49,361	59,819	70,222
韓国	85,174	175,758	176,963	149,823	158,791	172,775	173,348	190,709	173,645	190,900	210,588	210,268	241,792
タイ	22,458	10,839	12,857	20,748	29,837	23,342	14,466	14,669	9,105	16,044	36,049	33,397	35,118
マレーシア	11,684	7,085	9,408	11,950	11,866	10,642	7,220	5,167	5,883	9,465	15,581	17,687	10,681
インドネシア	8,866	5,283	5,760	6,179	11,275	6,611	8,762	6,226	7,105	7,105	8,295	8,230	14,850
シンガポール	6,237	7,921	7,454	14,578	9,698	14,145	15,370	6,290	10,300	10,300	13,296	25,296	30,839
合計	646,745	341,376	331,277	370,221	413,712	449,032	506,490	542,185	539,190	529,814	578,176	598,214	654,846 (人)

コロナ禍前（2020年1月）の数値を基準に回復状況を観測



ターゲット国合計の入国者数が、7～8月に足踏み状態となるが、2023年12月に654,846人に増加、2020年1月を上回り、101%となる

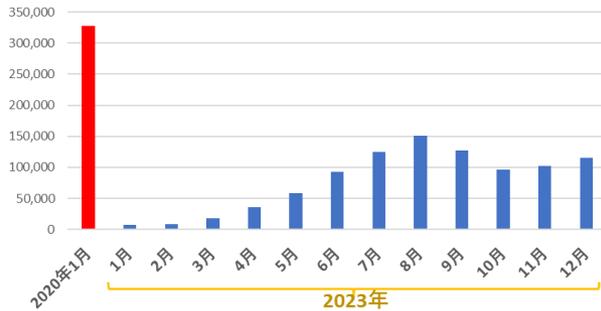
関西国際空港は、全国の入国者数の約4分の1を占める



国や地域で訪日旅行者の入国時期に特徴がある (※2023年の実績)

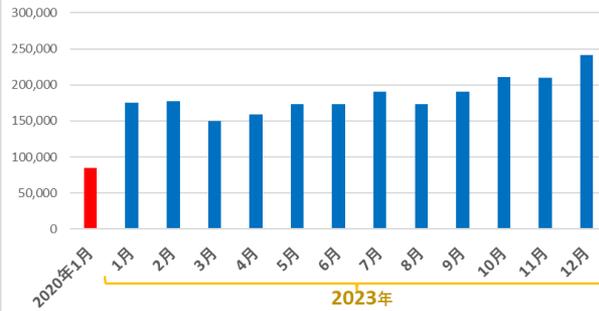
⇒国ごとのトレンドが、今後どのように変化するかに注目

中国



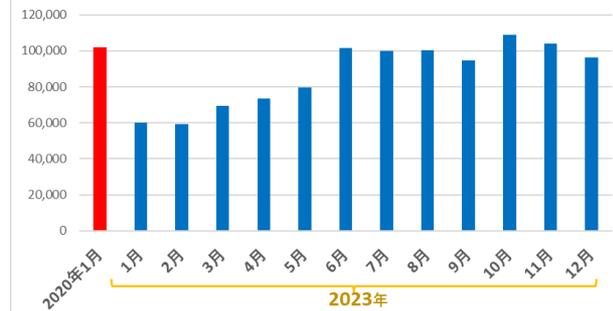
最も増加するのは7～8月。(コロナ前の傾向)
1～2月の春節や、9～10月の国慶節といった大型連休を利用して日本を訪れるケースもある。

韓国



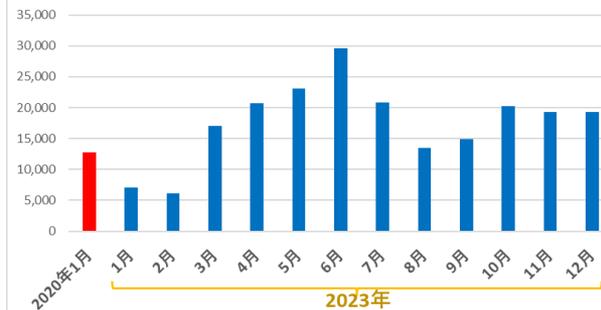
ハイシーズンは12月から2月。大学の冬期休暇があり、家族旅行や友人同士での訪日が多い。温泉やスキーなどを楽しみながら年越しをするプランなどが好まれる。

台湾



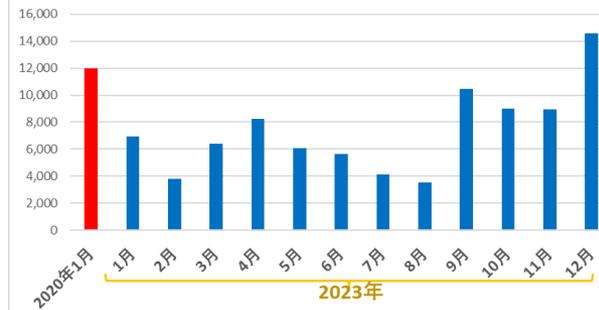
ハイシーズンは4月～7月。(コロナ前の傾向)
2023年は10月の秋が最も多かった。

米国



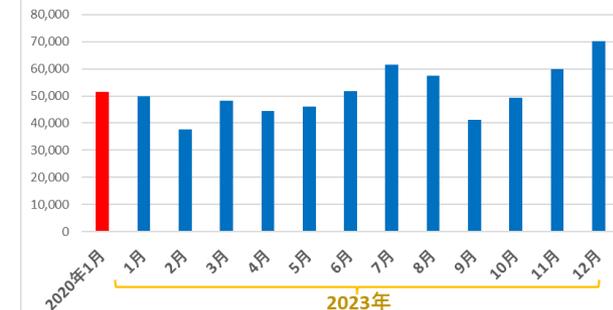
ハイシーズンは3月から7月までの春～夏、春季から初夏に訪問数が集中しその前後の時期は大きく落ち込む。
特に春季の桜シーズンが人気。

豪州



ハイシーズンは12月から1月にかけての冬季であり、逆に5月から8月にかけての夏季には訪問数が落ち込む傾向。

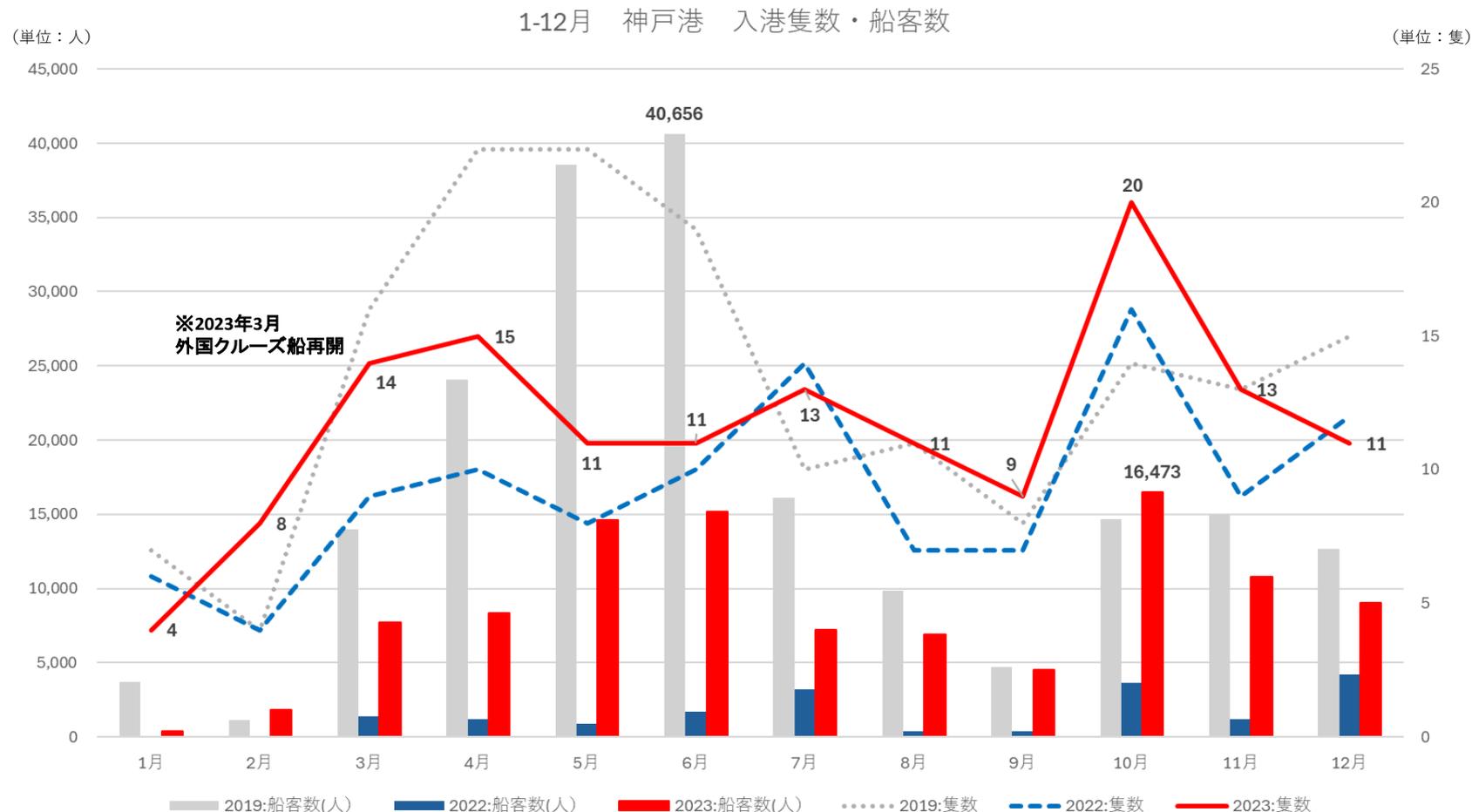
香港



ハイシーズンは7月と12月。特に7月は香港の学校などが夏季休暇に入るため、家族旅行に来る香港人が多い。

※コメントは2019年(コロナ前)の各国の傾向をメインに記載。コメントと2023年のピークと異なる部分に関しては、2023年が急速なインバウンド回復の1年であったため、例年とは異なる推移をした可能性がある事を考慮すること。

【旅客ターミナル入港推移①】ポートターミナル・中突堤



■2020年3月以降新型コロナウイルスの影響で国際クルーズが停止していたが、2023年3月より本格的に再開したことにより、神戸港も3月より入港が活発になり、寄港状況が急速に回復した1年と言える結果となった。

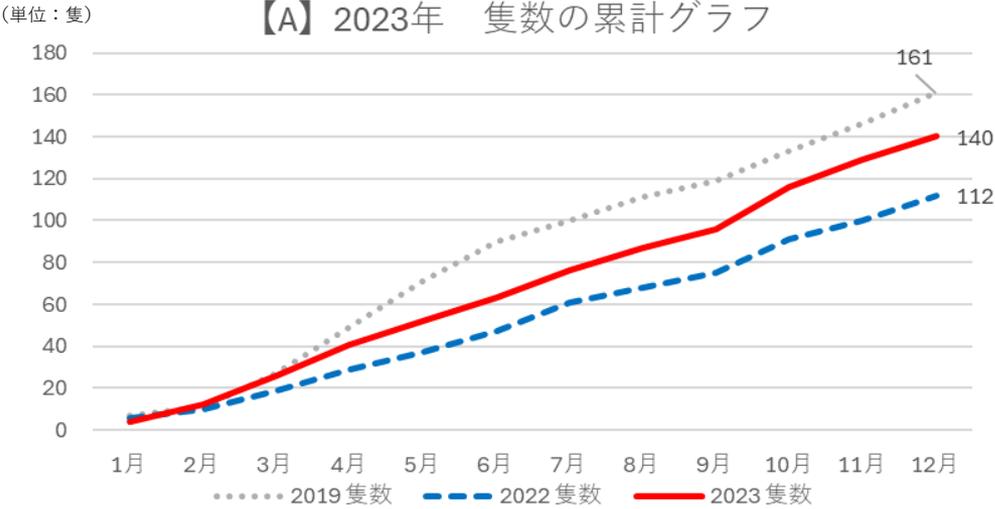
隻数の推移をみると、1月が4隻だったところから、3月に14隻までに回復。その後少し落ち込むものの、2023年10月には、1か月に20隻と、2023年の最多寄港数となった。神戸港への「初」寄港の船も多く、3隻同時寄港等のニュースも多く発信できた。

また、穏やかな回復を見せていた「船客数」(延べ人数)は、2023年10月は2019年同時期比の船客数を上回る16,473人が寄港した。クルーズ船の船客数の増減には季節要因があり、ハイシーズンとローシーズンの傾向はあるが、春シーズンは戻りきらなかった分、秋のシーズンには手ごたえを感じた結果となり、今後、2024年での更なる港の活性化が期待される。

【旅客ターミナル入港推移②】 ポートターミナル・中突堤



【A】 2023年 隻数の累計グラフ



【A】 2023年 隻数の累計グラフ

2023年と2019年・2022年の隻数の累計グラフを比較すると、ほぼコロナ前とほぼ同じ(86%)までに戻った。寄港する「船の数」は堅調に戻った様子が見て取れる。

【B】 2023年 船客数の累計グラフ

一方で、船客数の累計を2023年と2019年・2022年で比較すると、送客数は10万3014名(2019年比52%)の回復に留まった。

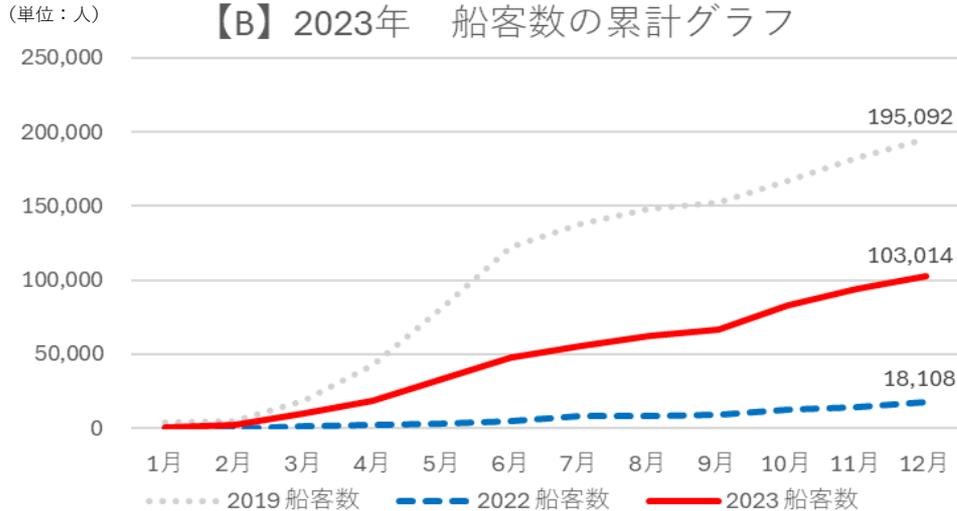
この結果の背景として以下のようなことが考察される

- ① 2019年はSPECTRUM OF THE SEASに代表される169,000トン級の超大型客船による中国からのクルーズ(1隻あたり約5,000人が乗船)が複数回あり、船客数が大幅に伸びた。
※2019年に入港した外国客船は、旅客定員1,000人を超える大型外国客船が約7割を占めた。
- ② 一方2023年に入港した外国客船で旅客定員1,000人以上は50%程度にとどまった。但し入港船は、船客数は少ないものの、ラグジュアリークラス等のグレードの高い客船の割合が増えており、来港する船客の特徴も変化した事が推察される。
- ③ 2019年は、日本籍客船「ぱしふいっくびいなす」が年間30~40回神戸港に入港。現在営業廃止。2023年は、その実績分がマイナスとなっている。
- ④ 日中国際フェリー(定期フェリー)は、2019年においては旅客の利用があったが、2023年現在では貨物輸送のみ行われ、旅客は乗船していない。

①~④の各種要因が複合的に絡み合っの結果と考える。

■船客数の上昇は、引き続き関心事としてモニタリングを行っていくが、滞在中の消費単価の期待度が高い顧客層の乗る「プレミアム・ラグジュアリー」のクルーズ船の寄港にも注目していきたい。

【B】 2023年 船客数の累計グラフ



(※いずれも国際フェリー含む)

神戸市内観光に関する情報
～神戸観光局オリジナルデータ～

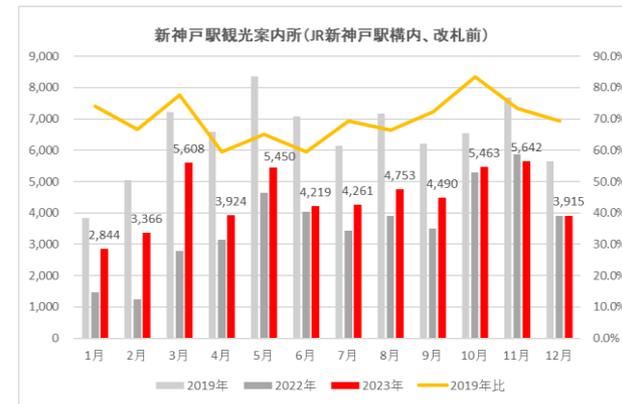
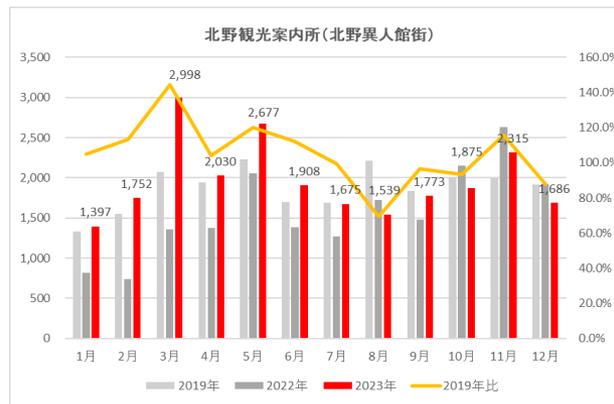
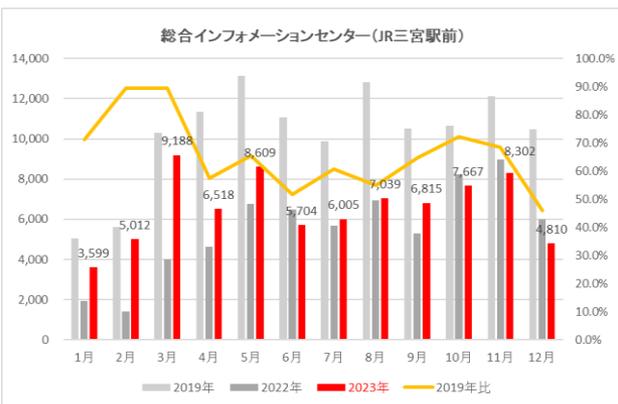
市内観光案内所 国内観光客案内件数 2023.1月～12月



○総合インフォメーションセンター

○北野観光案内所

○新神戸駅観光案内所

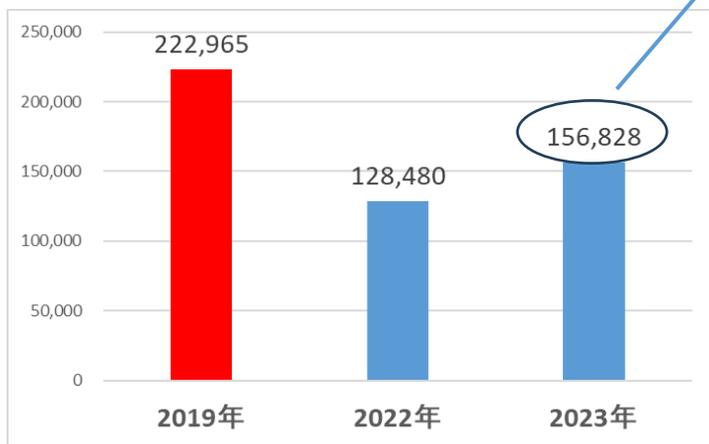


年間合計79,262件
前年比119.5%、2019年比64.5%

年間合計22,478件
前年比124.8%、2019年比105.1%

年間合計77,529件
前年比124.7%、2019年比69.6%

2023年 年間案内所全体件数 **156,828件** ⇒ 前年比 122% 2019年比 70.3%



(件数)

全ての案内所で前年の件数を上回る。
「北野観光案内所」は2019年よりも増加。(105.1%)
(修学旅行や校外学習の生徒が北野エリアに増加していることが要因の一つとして挙げられる)

対面の案内以外にも電話での問い合わせも多く、観光分野は当然の事、幅広い案件への対応が求められる。

件数を増加させる事だけが目的ではなく、親切丁寧な対応でサービスレベルの維持向上を心掛けている。

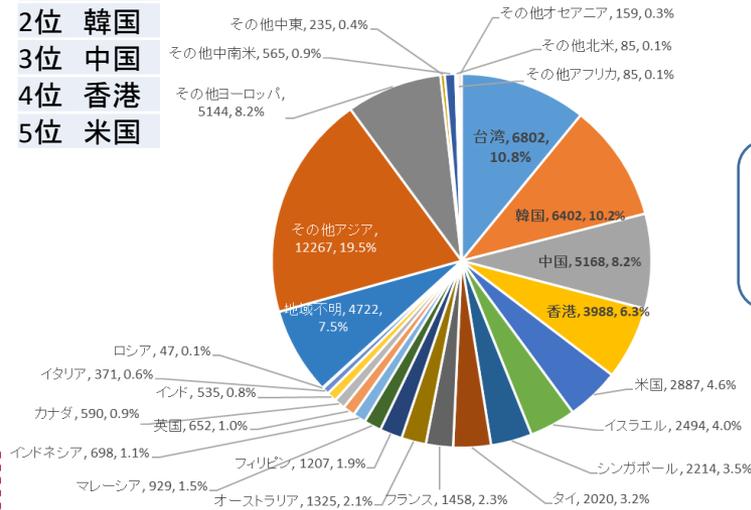
市内観光案内所 国籍別窓口対応状況（インバウンド）2023年1月～12月



- 2023年
- 1位 台湾
 - 2位 韓国
 - 3位 中国
 - 4位 香港
 - 5位 米国



2023年



【市内3カ所 観光案内所外国人対応件数集計】

- 総合インフォメーションセンター（JR三宮駅東口南）
- 北野観光案内所（北野異人館街）
- 新神戸駅観光案内所（JR新神戸駅構内、改札前）



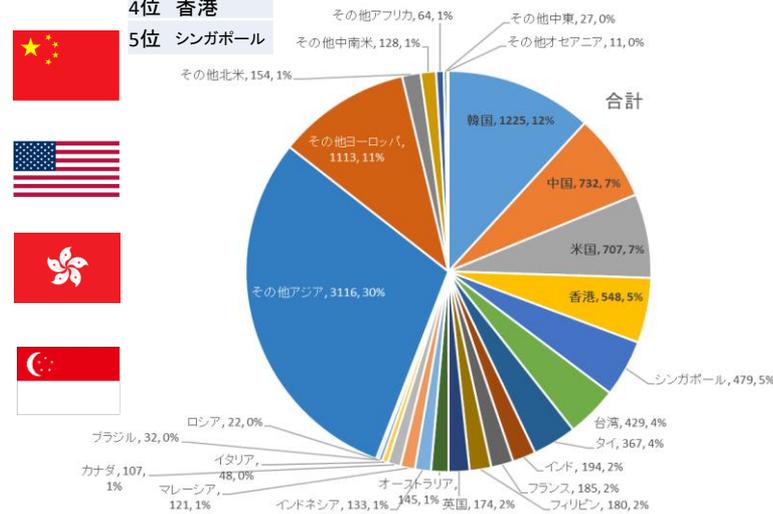
2022年では6位の台湾が2023年に1位になった。台湾の団体旅行の復活が一因で、市内主要ホテルでも台湾からの宿泊者数が増加傾向。全国では韓国からの入国者数が最も多いが、神戸では台湾比率が高いという特徴が顕れている。



- 2022年
- 1位 韓国
 - 2位 中国
 - 3位 米国
 - 4位 香港
 - 5位 シンガポール



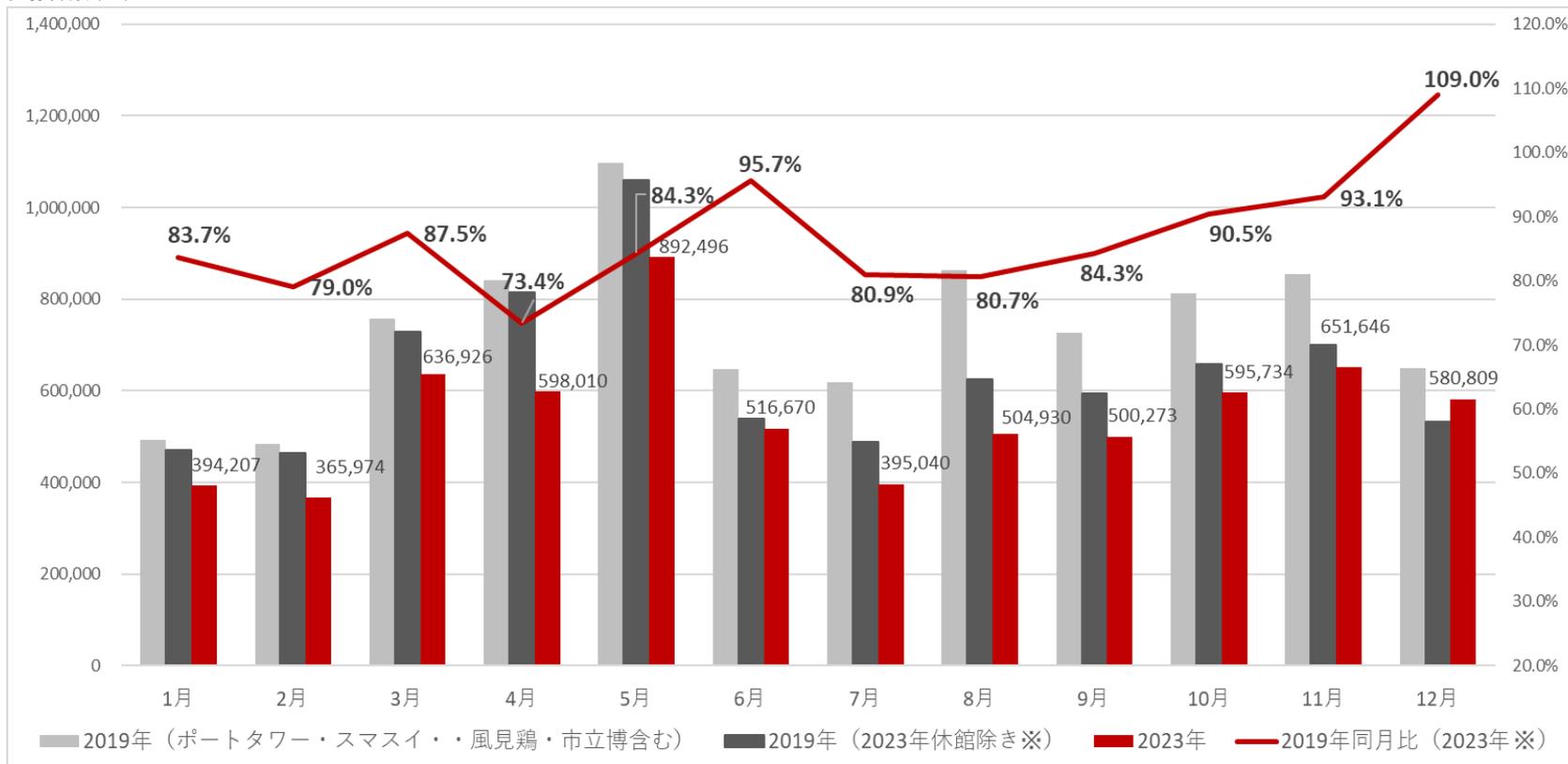
2022年



主要市内観光施設来場者数（2023年年間）

来場者数(人)

2019年比



※2019年比は、比較時点で改修中の施設除いて比較（2023年通年：ポートタワー、2023年6月～：スマスイ、2023年10月～：風見鶏の館、神戸市立博物館）
 ※2019年の来場者数は、2023年時点で改装中の施設を含んだグラフと、含まないグラフ両方を掲載。

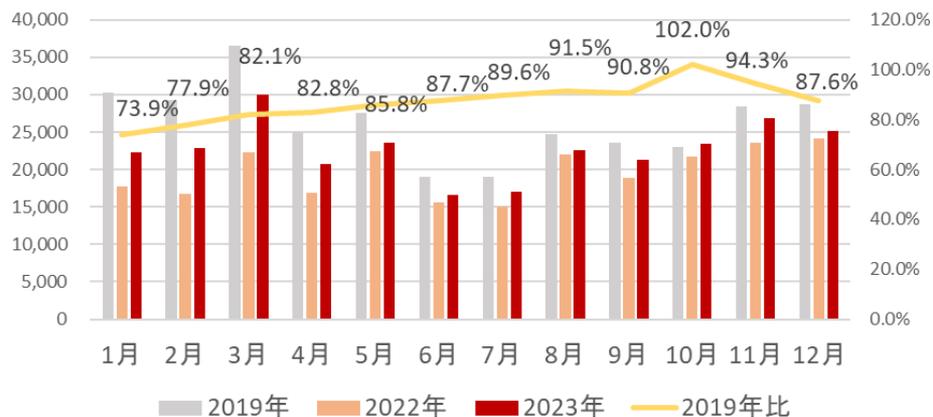
- ・年間の来場者数は、2023年時点で開館している施設ベースで2019年比を確認すると、12月にコロナ前を超えるほどまでに回復。
- ・一方、各施設からは、国内旅行者の戻りは良いものの、インバウンドに関しては、2019年に最も多かった中国の団体ツアーが戻らないため、インバウンドがなかなか戻らないという声が多数あった。
- ・回復率(2019年比)は施設ごとに少しばらつきがある。多いところではコロナ前の1.6倍もの来場者数となっている施設も。
- ・2023年は休館する施設も多く、総数としてはコロナ前を下回る月が続いている。2024年はリニューアルオープンとなる施設が多いことから、観光施設来場者数の回復は2024年に期待したいところである。

出典：神戸市観光企画課・神戸観光局調査

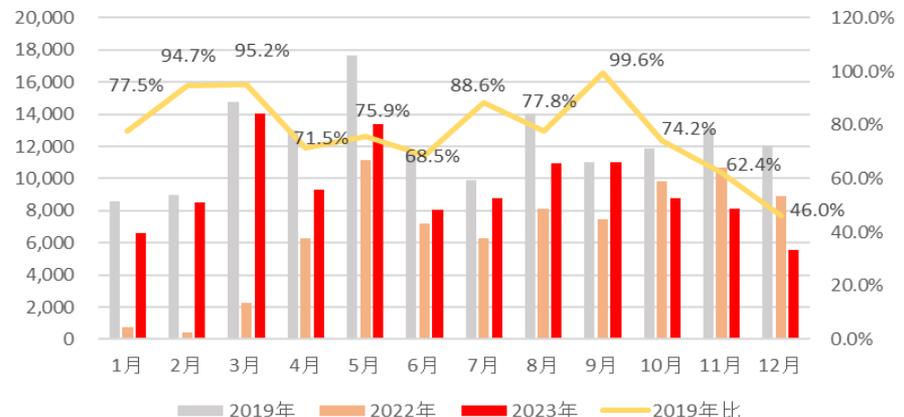
集計対象施設：全19施設(ラインの館、北野工房のまち、王子動物園、神戸どうぶつ王国、神戸布引ハーブ園、六甲山牧場、金の湯、銀の湯、道の駅フルーツ・フラワーパーク大沢など)

所管施設入館者数（金の湯・銀の湯） / （萌黄の館） 2023年1月～12月

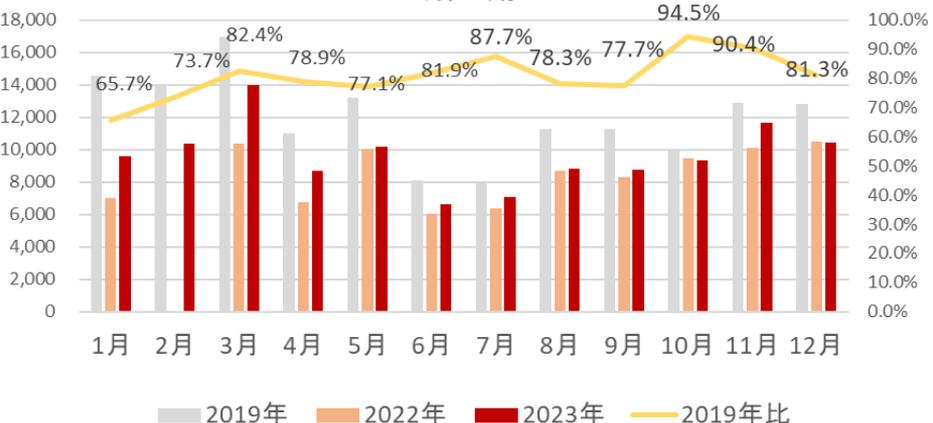
金の湯



萌黄の館



銀の湯



【2023年通期：1月～12月】
前年比／142.5% 2019年比／77.1%



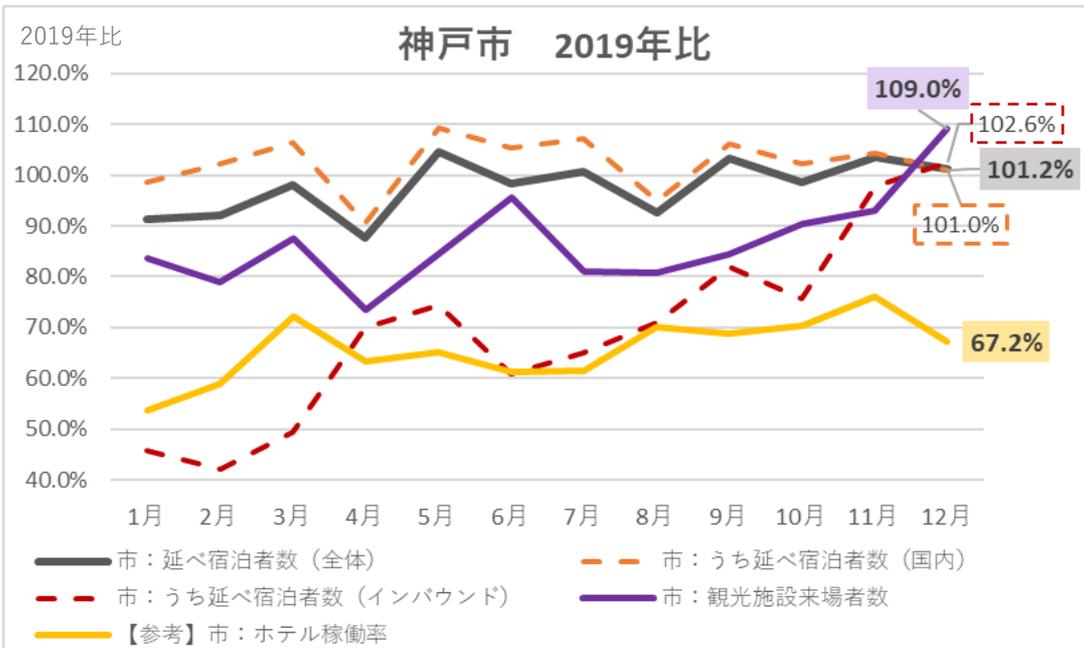
※10月より「風見鶏の館」改修工事のため休館、
来館者数減少の要因となっている。

国内外を含め、北野に訪れる人数自体は増加傾向。

【2023年通期：1月～12月】
金の湯 前年比／114.9% 2019年比／86.5%
銀の湯 前年比／136.5% 2019年比／80.1%



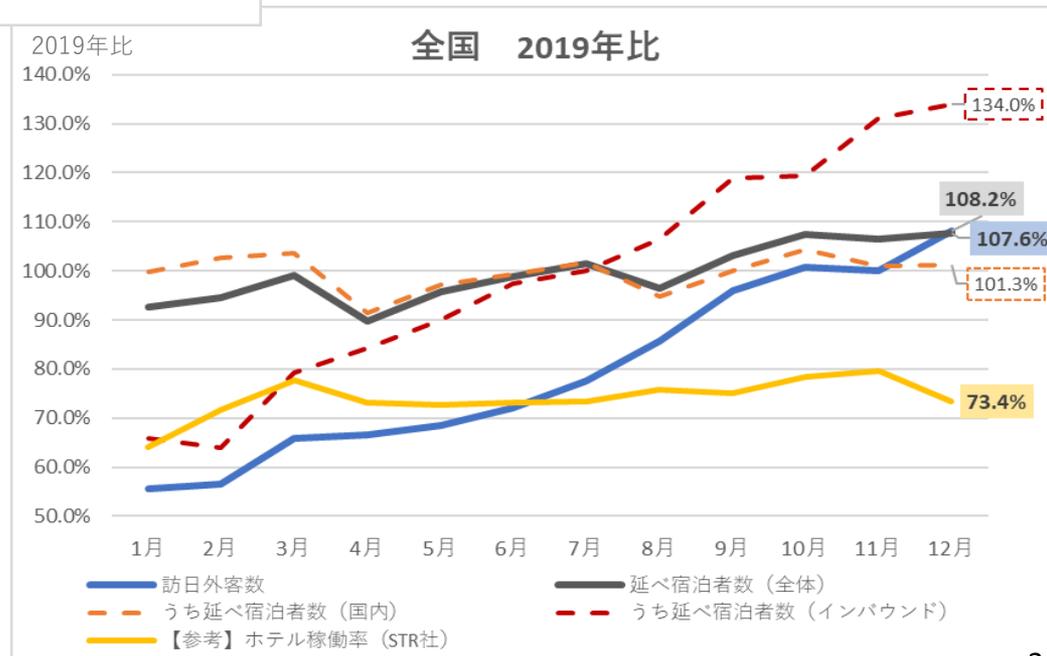
コロナ禍からの回復率まとめ（各種データ2019年比）



宿泊・ホテル稼働率・観光客数の回復率のみ。

※すべての項目の回復率をまとめているわけではない

- 神戸市は1月時点では特にインバウンド宿泊者数の2019年比が50%を切る状態であったが、徐々にインバウンドも右肩上がりに回復し、12月にはインバウンド含め2019年水準まで旅行者数が回復。
- 全国的には国内旅行者はコロナ前水準に戻り、インバウンドはコロナ前を超える水準まで回復が進んでいる状態。



アンケートご協力のお願い

「2023年 神戸観光年間レポート」をご覧ください、誠にありがとうございました。

神戸観光局では、毎月最終火曜日にマーケティング情報を集約した「マンスリーレポート」を、神戸観光局会員の皆様へ配信しております。

今後もより充実したレポートの作成や、皆様のお役に立てるマーケティング情報の発信に努めてまいります。
神戸観光局会員の皆様におかれましては、ぜひ「マンスリーレポート」に関するアンケートにご協力いただき、皆様のお気づきの点やご感想など、ご遠慮なくお聞かせください。

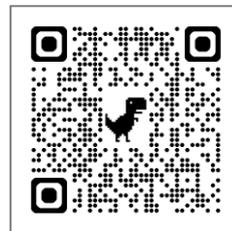
一般財団法人神戸観光局
経営推進部マーケティング担当



下記URLまたは二次元コードからご回答ください。(回答期限:2024.6.30まで)

<アンケート回答ページ>

<https://forms.gle/ts9VgJoHVTZyL9EUA>



ご協力のほどよろしく願いいたします。

「マンスリーレポート」の配信をご希望の場合、神戸観光局会員への入会が必要となります。

神戸観光局への入会を希望される方は、神戸観光局ホームページよりお申し込みください。 35